

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	特任教授（理学博士）		氏名	粟屋 かよ子	
所属学会	日本環境学会、東海社会学会、三重県公衆衛生学会							
教育活動								
教育実践上の主な業績			概 要					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		毎回の授業が学生に定着しているかを確認するために、最後に小レポート・小テストを課している。教科「自然と人間」に関しては毎回、事前にテキストを読み、課題レポートを提出させるという予習を課しているが、学生による授業評価も高い。					
2	作成した教科書、教材、参考書		教材としては、現実の社会で生じていることも、できるだけ参考資料として配布し、学生が課題意識をもって学習できるように工夫している					
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし					
4	その他教育活動上特記すべき事項		「NPO 環境市民大学よっかいち」代表として、『四日市公害・環境市民学校 2009』を企画し、学生にも参加を呼び掛けたが、環境問題の解決は学生(次世代)にとっても緊急の最重要課題であり、共に探ることに意味があり、まさに生きた教材であると思っている。					
研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称		编者・著者名（共著の場合のみ記入）		該当頁数
著書								
破局 人類は生き残れるか		単著	平成 19 年 3 月	海鳴社出版				246 頁
四日市公害を語る 野田之一氏と澤井余志郎氏へのインタビュー		共著	平成 20 年 3 月	四日市大学・四日市学研究会 四日市学講座		粟屋かよ子、播磨良紀		74 頁
論文								
Complementarity between Macro- and Micro-World		単著	平成 17 年 9 月	Physics Essays Vol.18 No.3				380 頁 ~ 392 頁
自然の中の人間として再生は可能か		単著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 2 号				1 頁 ~ 26 頁

三重県の開示文書にみる大矢知・平津地域産業廃棄物不法投棄の経緯	単著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号		113 頁 ~ 136 頁
Ground Water and Pollution near Oyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	高橋正昭、粟屋かよ子、井岡幹博、武本行正	27 頁 ~ 31 頁
三重県四日市市大矢知・平津地域における産業廃棄物不法投棄の経緯	単著	平成 20 年 7 月	日本の科学者 Vol.43 No.7		2 頁 ~ 9 頁
四日市市富田地区における地下水汚染について	共著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号	高橋正昭、粟屋かよ子、井岡幹博、武本行正	39 頁 ~ 42 頁
持続可能な社会への 17 カ条	単著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号		1 頁 ~ 9 頁
三重県の調査に基づいた四日市市大矢知・平津地内不法投棄の現状について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	井岡幹博、高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	11 頁 ~ 23 頁
地下水中ヒ素の簡易分析について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	井岡幹博、高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	95 頁 ~ 100 頁

主な学会活動

発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
大矢知・平津地内産業廃棄物不法投棄の経緯と住民の対応	共同	平成 18 年 11 月	廃棄物学会研究発表会
大矢知地域の環境調査の問題点	単独	平成 18 年 11 月	日本環境学会主催シンポジウム『廃棄物問題を考える 東海地域の事例を中心にして』
廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 19 年 11 月	廃棄物学会研究発表会
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共同	平成 19 年 11 月	International Symposium on EcoTopia Science (ISETS07) 名古屋大学エコトピア化学研究所主催
廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 20 年 3 月	日本水環境学会年会
四日市市大矢知・平津地域産業廃棄物不法投棄事件	単独	平成 20 年 3 月	第 17 回総合学術研究集会

四日市市富田地区における地下水汚染について	共同	平成 21 年 1 月	第 61 回三重県公衆衛生学会総会
四日市市大矢知・平津地域産廃不法投棄事件（シンポジウム『産業廃棄物の不法投棄を考える』のパネラーとして）	共同	平成 21 年 6 月	日本環境学会
四日市市大矢知・平津地内不法投棄事件	単独	平成 21 年 9 月	高木基金第 2 回ごみ処分場・ごみ処理施設問題公開研究会
社会における主な活動			
平成 18 年 8 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県環境審議会委員（三重県）		
平成 18 年 9 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県公害事前審査会委員（三重県）		
平成 20 年 3 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	NPO 環境市民大学よっかいち 代表（民間）		
平成 21 年 6 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本環境学会幹事		

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	教授（農学修士）	氏名	井岡 幹博
所属学会	情報処理学会、電子情報通信学会、Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		毎回の授業で、履修内容に基づいた演習課題を与え、レポートまたは電子物として提出させ、評価している。授業評価アンケートの結果に基づいて学生との意見交換を行って授業改善に努めている。			
2	作成した教科書、教材、参考書		オープンソース・ソフトウェアによる Web アプリケーション構築をする際にいわゆる LAMP(OS である Linux、Web サーバである Apache、データベースサーバである MySQL、スクリプト言語の PHP)がよく利用される。これらの環境を学内で整備し、数値、テキスト、画像等をデータベース化して蓄える仕組みとそれにアクセスする Web アプリケーションを構築した。データ登録、検索機能を備えており、授業の中で教材として活用している。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項		初級シスアドおよび基本情報処理技術者試験のための短期講座講師			
研究活動						
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書						
IT Text 情報処理学会編集 人画像処理		共著	平成 19 年 12 月	オーム社	越後富夫、岩井儀雄、森島繁生、鷲見和彦、八木康史	30 頁

三重県地域結集型共同研究事業 閉鎖性海域における環境創生プロジェクト「英虞湾物質循環調査研究報告書～ゆたかな里海の創生に向けて～」	共著	平成 20 年 3 月	三重県	高橋正昭、国分秀樹、千葉賢、篠田成郎	313 頁～351 頁
三重県の調査に基づいた四日市大矢知・平津地内不法投棄の現状について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	11 頁～23 頁
地下水中ヒ素の簡易分析について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	39 頁～42 頁
論文					
英虞湾集水域における汚濁負荷に関する GIS データの整備	単著	平成 17 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 1 号		1 頁～16 頁
英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について	共著	平成 19 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 1 号	高橋正昭、千葉賢	35 頁～42 頁
英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について(第 2 報)	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	高橋正昭、千葉賢	19 頁～26 頁
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	27 頁～32 頁
Nutrients Transfer between the Sea and Artificially Enclosed Waters	共著	平成 20 年 8 月	Proceedings of Mie-Bio Forum 2008 Shima-Isobe	高橋正昭、千葉賢、国分秀樹	567 頁～572 頁
英虞湾の潮止め池における海水の移動および栄養塩の挙動	共著	平成 20 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 1 号	高橋正昭、千葉賢、国分秀樹	29 頁～38 頁
集水域における土地利用と海域への負荷	共著	平成 21 年 3 月	海洋と生物 Vol.30 no.3	高橋正昭、千葉賢	341 頁～347 頁
四日市市富田地区における地下水汚染について	共著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号	高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正、郭鵬	39 頁～42 頁

主な学会活動			
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
Analysis of Mass Transfer in an Inner Bay of Japan using the Box Model r	共同	平成 17 年 5 月	5th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technologies(APCSEET)
陸域からの負荷の解明	共同	平成 18 年 10 月	三重県地域結集型共同研究事業 平成 18 年度研究成果発表会
大矢知・平津地内産業廃棄物不法投棄の経緯と住民の対応	共同	平成 18 年 11 月	第 17 回廃棄物学会研究発表会
大矢知処分場周辺地下水の調査結果について	共同	平成 19 年 1 月	第 59 回三重県公衆衛生学会
英虞湾集水域の栄養塩負荷の現況について	共同	平成 19 年 3 月	第 42 回日本水環境学会年会
簡易試験法を用いた廃棄物処分場周辺の地下水調査事例	共同	平成 19 年 5 月	日本環境教育学会 第 18 回大会
Estimation of the Load of Total Nitrogen and Total Phosphorus in the Enclosed Bay Watershed using GIS	共同	平成 20 年 7 月	2008 IEEE International Geoscience & Remote Sensing Symposium(IGARSS2008)
大学内及び周辺地域における環境実地教育	共同	平成 20 年 8 月	日本環境教育学会第 19 回大会
社会における主な活動			
平成 17 年 8 月		環境情報学入門実習コース「陸の環境・衛星画像から見た地球について」講師	
平成 17 年 11 月		三重県地域結集共同研究「閉鎖性海域の環境創生プロジェクト」平成 17 年度研究中間発表会発表者	
平成 18 年 1 月		三重県地域結集共同研究「閉鎖性海域の環境創生プロジェクト」英虞湾の物質循環研究会発表	
平成 18 年 3 月		大矢知・平津地内廃棄物不法投棄について第 1 回シンポジウム 報告	
平成 18 年 8 月		環境情報学入門実習コース「陸の環境・衛星画像から見た地球について」講師	
平成 20 年 8 月		サマースクール「高松干潟を科学する」講師	
平成 21 年 8 月		サマースクール「高松干潟を科学する」講師	

平成 21 年 9 月

コミュニティカレッジ「IT パスポート講座」講師

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	特任教授（農学博士）		氏名	大倉 克己	
所属学会	日本土壌肥料学会、日本マクロエンジニアリング学会、American Society of Agronomy							
教育活動								
教育実践上の主な業績			概 要					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		教科書を指定しても購入しない学生が多いので、無料の配布プリントを作成している。プリントの配布は、一括でなく授業ごとに行っている。					
2	作成した教科書、教材、参考書		なし					
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし					
4	その他教育活動上特記すべき事項		平成16年4月～平成19年3月 四日市大学エネルギー環境教育研究会代表。その間、四日市市、岐阜県大垣市、名古屋市のそれぞれで東海地域エネルギー環境教育フォーラムを各1回開催した。					
研究活動								
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数			
論文								
Depression of sink activity precedes the inhibition of biomass production in tomato plant subjected to potassium deficiency stress.	共著	平成17年	Journal of Experimental Botany 58巻12号	S. Kanai, K. Ohkura, J.J. Adu-Gyamfi P.K. Mohapatra, N.T. Nguen, H. Saneoka, K., K. Fujita	2917頁～2828頁			
N-deficiency damps out circadian rhythmic changes of stem diameter dynamics in tomato plant	共著	平成18年	Plant Sciences 174巻	S. Kanai, J.J. Adu-Gyamfi, K. Lei, J. Ito, K. Ohkura, R.E.M. Moghaieb, H. EL-Shemy, R. Mohapatra, H. Saneoka, K. Fujita	183頁～191頁			

主な学会活動			
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
カリウム欠乏がトマトの生育、光合成、茎系変化および光合成産物の転流に与える影響	共同	平成 17 年 9 月	日本土壌肥料学会 2005 年度島根大会
トマトの生育、歪みゲージ変位計によるトマトの塩ストレスのリアルタイム診断	共同	平成 17 年 9 月	日本土壌肥料学会 2005 年度島根大会
トウモロコシおよびナスにおける茎系変化、蒸散、気孔開孔率	共同	平成 17 年 9 月	日本土壌肥料学会 2005 年度島根大会
Preliminary screening of plants for mercury-accumulating ability	共同	平成 19 年 5 月	The 6 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technology, Bangkok, Thailand May 7-11, 2007
社会における主な活動			
平成 19 年 4 月～平成 22 年 5 月 1 日（現在に至る）		『ニホンリスが棲める環境づくり』守山リス研究会会員	

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	教授（博士（学術））	氏名	小川 束
所属学会	日本数学会、日本数学協会、日本科学史学会、日本数学史学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	講義時のコミュニケーション向上のため、問題を解く時間を積極的に作り、巡回し、質問を促し、質問しやすい環境を作っている。また学生に問題の回答案を板書させて、その場で添削をしている。指名する学生も日本人の他、中国人、ネパール人など配慮して、学生間の相互理解の一助としている。必要に応じて宿題の添削もしている。授業評価も実施している。			
2	作成した教科書、教材、参考書	線型代数プリント集			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ニュートンの株価運動法則」『数学文化』（日本評論社，平成17年）第4号，5-6頁 2. 「数学まなびはじめ，数学史への道」『数学のたのしみ』（日本評論社，平成17年），19-26頁 3. 「数学史と融合した『数学基礎』について」，数学教育の会，平成17年9月（学習院大学） 4. 「江戸時代の人々はどのように数学を学んだか」，数学教育の会，平成18年1月（学習院大学） 5. 「分数のできない大学生調査その後」，数学教育の会，平成18年9月（学習院大学） 6. 「江戸の遊びと今の退屈」，数学協会近畿支部講演会，平成18年10月（大阪経済大） 7. 「数学史と融合した『数学基礎』について」『数学教育研究』（数学教育の会，平成19年）第8号，127-132頁 8. 「珠算教育雑感」『日本珠算』（日本珠算連盟，平成19年1月）第592号，2-4頁 9. 「数学の基礎学力調査問題」，『数学教育研究』（数学教育の会，平成19年）第9号，1-7頁 10. 「商品価値のPQSモデル（谷口モデル）」，数学教育の会，平成19年9月（学習院大学） 11. 「数学が役に立つということについて」，数学教育の会，平成20年1月（学習院大学） 12. 「そろばんを前提とした算数教育試案(1)」数学協会年次大会，平成21年8月（東京大学） 13. 「算数教育と珠算教育の新しい融合を目指して」日本珠算連盟・岐阜県珠算振興会連合会珠算指導者講習会，平成21年11月（ハートフルスクエア-G） 14. 「江戸時代のそろばん」日本珠算連盟愛知県珠算連盟連合会・日本珠算連盟名古屋支部珠算指導者講習会，平成22年1月（ウィルあいち） 			

4 その他教育活動上特記すべき事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際基督教大学ゲスト講師，平成 17 年 10 月 2. 第 3 回けいはんなセミナー（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業）講師，セミナー指導，平成 18 年 2 月 3. 入試合格者事前指導「数学」講師，平成 18 年 3 月 4. 第 4 回けいはんなセミナー（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業）講師，セミナー指導，平成 19 年 2 月 5. 「高次連立方程式を解く 関孝和の考えたこと」，京都大学新春特別講義講師，平成 20 年 1 月 6. 「励ましとしての数学史」，数学教育セミナー（名古屋大学），平成 20 年 1 月 7. 入試合格者事前指導「数学」講師，平成 20 年 8 月 8. 第 5 回けいはんなセミナー（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業）講師，セミナー指導，平成 20 年 2 月 9. 「京都大学数学教室所蔵の和算書について」，数学史連続講義（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業）講師，平成 20 年 3 月 10. 九州大学大学院・理学府・講師（「数理科学特別講義」，集中講義），2009 年 2 月 11. 「円周率を計算した人々」，ときめき ひらめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI（日本学術振興会・研究成果の社会還元・普及事業）講師，平成 20 年 8 月 12. 第 6 回けいはんなセミナー（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業）講師，セミナー指導，平成 21 年 2 月 13. 「京都大学蔵『三木流算書』（全 31 冊）の全貌」，数学史連続講義（京都大学理学研究科数学教室 21 世紀 COE 事業），平成 21 年 3 月 14. 「名城大学総合講座」講師（「関孝和の数学」名城大学），平成 21 年 5 月 15. 「ときめ ひらめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（学術振興会・研究成果の社会還元・普及事業）講師，（四日市大学・関孝和数学研究所），平成 21 年 8 月 16. 「高大連携授業」講師（暁学園），平成 22 年 2 月 17. 「数学吉田塾シニア@けいはんな」セミナー指導（けいはんなプラザ），平成 22 年 2 月
-------------------	--

研究活動

著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『弧勾弦鈔』	単著	平成 19 年 4 月	『江戸初期和算選書』第 8 巻第 3 分冊 研成社		1 頁～83 頁
建部賢弘の数学	共著	平成 20 年 3 月	共立出版	佐藤健一、竹之内脩、森本光生	1 頁～197 頁
関孝和三百年記念出版 関孝和の人と	共著	平成 20 年 1 月	研成社	佐藤健一、真島秀行編	64 頁～79 頁

業績					
関孝和論序説	共著	平成 20 年 12 月	岩波書店	上野健爾、小林龍彦、佐藤賢一	105 頁 ~ 79 頁
論文					
関孝和と行列式	単著	平成 18 年 8 月	数学のたのしみ 2006 夏 (日本評論社)	上野健爾、砂田利一、新井仁之編	67 頁 ~ 86 頁
綴術算経』の「自質説」について----- 現代語訳の試み	単著	平成 19 年 4 月	『数理解析研究所講究録』(京都大学数理解析研究所) 1546		163 頁 ~ 174 頁
Japanese mathematics of the Edo period	共著	平成 19 年	La matematica (Giulio Einaudi)	Kenji Ueno	387 頁 ~ 399 頁
和算に見る計算力	単著	平成 19 年 10 月	『科学』77.10 (岩波書店)		1054 頁 ~ 1056 頁
he Mathematics of Takebe Katahiro: His Three Formulas on an Inverse Trigonometric Function	共著	平成 19 年	Sugaku Expositions(AMS), 20.2	Mitsuo Morimoto	237 頁 ~ 252 頁
著者ととともに体験する数学者の仕事	単著	平成 19 年 12 月	『中央公論』		275 頁
江戸時代の遊びの中から数学の重要な 考え方を学ぶ	単著	平成 20 年 1 月	『数学教育』(明治図書)		26 頁 ~ 29 頁
暗算をめぐって	単著	平成 20 年 1 月	『数学文化』9 (日本評論社)		50 頁 ~ 72 頁
速算式暗算法について I (加減法, 乗法) 徐思衆『中国珠算心算大全』の紹介	単著	平成 20 年 1 月	『数学文化』9 (日本評論社)		81 頁 ~ 93 頁
和算から洋算へ	単著	平成 20 年 1 月	『科学』78.1 (岩波書店)		73 頁 ~ 75 頁
関孝和によるベルヌーイ数の発見	単著	平成 20 年 2 月	『数理解析研究所講究録』(京都大学数理解析研究所) 1583		1 頁 ~ 18 頁
円周率, 円弧長, 球の体積の計算	単著	平成 20 年 7 月	『数学文化』第 10 号		38 頁 ~ 50 頁
自然数の冪乗和とベルヌーイ数	単著	平成 20 年 7 月	『数学文化』第 10 号		51 頁 ~ 66 頁
関孝和の角術	単著	平成 20 年 7 月	『数学文化』第 10 号		67 頁 ~ 75 頁
関の数学をめぐる謎	単著	平成 20 年 7 月	『数学文化』第 10 号		95 頁 ~ 99 頁
『海島算経』で学ぶ数学	単著	平成 20 年 8 月	『数学教育』609		68 頁 ~ 71 頁
建部賢弘の円周率計算をそろばんで再 現する	単著	平成 22 年 1 月	『数学文化』第 13 号 (日本数学協会)		33 頁 ~ 46 頁
至誠賛化流と『起元解』について	単著	平成 22 年 4 月	『数理解析研究所講究録 数学史の研究』 1677 (京都大学数理解析研究所)		1 頁 ~ 9 頁

その他				
現代の和算家・和算書	単独	平成 21 年 8 月	『数学文化』第 12 号（日本数学協会）	1 頁
書評「高瀬正仁『無限解析のはじまり』 （ちくま学芸文庫，2009 年）	単独	平成 22 年 1 月	『数学文化』第 13 号（日本数学協会）	82 頁～83 頁
西洋数学史の驚きエピソード 数学の 論理とゲーデル	単独	平成 22 年 4 月	『数学教育』630（明治図書）	54 頁～57 頁
主な学会活動				
発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等	
学会発表				
Editing a Critical Version of TAKEBE Katahiro's Mathematical Works	単独	平成 17 年 7 月	The Sixth International Symposium on the History of Mathematics and Mathematical Education Using Chinese Characters, at University of Tokyo.	
近世日本数学における表現形式につい て	単独	平成 17 年 8 月	京都大学数理解析研究所研究集会（数学史の研究） 京都大学	
A Quotation from the "Suishu" in the "Tetsujutsu Sankei" by Takebe Katahiro	単独	平成 18 年 3 月	International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia (IPSHMEA) I-1, at Tianjin Normal University.	
天元庵述『数理筆談』について	単独	平成 18 年 3 月	日本数学会 中央大学	
『綴術算経』の「自質説」について 現代語訳の試み	単独	平成 18 年 8 月	京都大学数理解析研究所研究集会（数学史の研究） 京都大学	
日本の数学と無限小の概念	単独	平成 19 年 1 月	数学教育の会 学習院大学	
The Bernoulli Numbers discovered by Seki Takakazu	単独	平成 19 年 3 月	International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia (IPSHMEA) I-2, at International Christian University.	
暗算をめぐって	共同	平成 19 年 5 月	日本数学協会総会 東京大学	
江戸時代の円周率計算	単独	平成 19 年 7 月	日本科学史学会・科学史学校第 20 期 国立科学博物館	
速算式暗算法について	単独	平成 19 年 8 月	日本数学協会年次大会 埼玉大学	
関孝和によるベルヌーイ数の発見	単独	平成 19 年 8 月	京都大学数理解析研究所研究集会（数学史の研究） 京都大学	
『括要算法』巻元	単独	平成 19 年 12 月	関孝和没後 300 年記念・『括要算法』連続講読会 鶴舞図書館	
『括要算法』巻亨	単独	平成 20 年 1 月	関孝和没後 300 年記念・『括要算法』連続講読会 鶴舞図書館	
関孝和の数学と建部賢弘	単独	平成 20 年 1 月	広島大学理学部数学教室談話会 広島大学	

『括要算法』巻貞	単独	平成 20 年 3 月	関孝和没後 300 年記念・『括要算法』連続講読会 鶴舞図書館
Calculation of pi by Seki Takakazu and Takebe Brothers	単独	平成 20 年 3 月	International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia (IPSHMEA) I-3, at Tsinghua University.
関孝和と建部兄弟の円周率計算	単独	平成 20 年 4 月	数学文献を読む会 共立出版
関孝和と建部賢弘の円周率計算	共同	平成 20 年 5 月	日本科学史学会 電気通信大学
関孝和とその後継者達	単独	平成 20 年 6 月	日本数学協会文化講演会 東京大学
関孝和の数値計算について	単独	平成 20 年 8 月	京都大学数理解析研究所研究集会（数学史の研究） 京都大学
Theories of circles originated by Seki and Takebe Katahiro	単独	平成 20 年 8 月	International Conference on History of Mathematics in Memory of Seki Takakazu (1642? -1708), at Tokyo University of Science
速算・暗算による計算	単独	平成 20 年 9 月	数学教育の会 学習院大学
西脇利忠『算法天元録』にみる未知数消去の理論	単独	平成 20 年 10 月	堺・南大阪地域学研究会 大阪府立大学
関の時代と数学	単独	平成 20 年 11 月	関孝和三百年祭記念講演会「和算と東北大学」 東北大学
関と消去理論	単独	平成 20 年 11 月	関孝和三百年祭記念講演会「和算と東北大学」 東北大学
関孝和の数学と現代数学	共同	平成 20 年 11 月	日本数学協会文化講演会 東京大学
The Bernoulli Numbers discovered by the Pre-modern Japanese Mathematician Seki Takakazu	単独	平成 21 年 3 月	International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia (IPSHMEA) I-4, at Museum Meijimura
そろばんを前提とした算数教育試案(1)	単独	平成 21 年 8 月	年次大会 日本数学協会
そろばんによる建部賢弘の円周率計算再現	単独	平成 21 年 8 月	年次大会 日本数学協会
至誠賛化流と『起元解』について	単独	平成 21 年 8 月	京都大学数理解析研究所研究集会（数学史の研究） 京都大学数理解析研究所
江戸時代の数学文化を考える	単独	平成 21 年 8 月	三重アカデミックセミナー 三重県
円周率とその歴史	単独	平成 21 年 9 月	数学文化講演会 関孝和数学研究所
The Bernoulli Numbers Discovered by a Pre-modern Japanese Mathematician Seki Takakazu	単独	平成 22 年 1 月	数学史シンポジウム 京都大学
桑名藩の数学文化	単独	平成 22 年 1 月	ロータリークラブ 桑名ロータリークラブ

The Bernoulli Numbers Discovered by Seki Tkakazu	単独	平成 22 年 3 月	招待講演会 中国北京・中国科学院
日本伝統数学と中国伝統数学の比較研究	単独	平成 22 年 3 月	招待講演会 中国北京・清華大学
日本伝統数学と中国伝統数学の比較研究	単独	平成 22 年 3 月	招待講演会 中国上海・東華大学
近世日本数学史の楽しみ	単独	平成 22 年 3 月	3.14...関孝和数学研究所シンポジウム 関孝和数学研究所
社会における主な活動			
平成 9 年 8 月～平成 21 年 5 月（現在に至る）	京都大学数理解析研究所共同研究集会「数学史の研究」共同研究者 研究代表者（平成 18 年）		
平成 13 年 9 月～平成 19 年 3 月	岩波数学辞典第 4 版数学史専門編集委員（日本数学会）		
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	科学研究費 特定領域「日本天文学資料のグローバルな調査と総合目録の作成」		
平成 14 年 12 月～平成 19 年 3 月	日本数学協会理事		
平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月	科学研究費 基盤研究（C）（2）「建部賢弘の数学に関する研究」		
平成 10 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	和算研究所研究委員会委員		
平成 19 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本数学協会幹事（日本数学協会）		
平成 21 年 4 月～平成 21 年 5 月	私立学校学術研究振興資金「日本伝統数学と中国伝統数学の比較研究」		
平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月	科学研究費補助金「ひらめき ときめきサイエンス」		
平成 22 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	科学研究費補助金 基盤研究（C）「近世日本の数学の方法と論理」		
平成 22 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	科学研究費補助金「ひらめき ときめきサイエンス」		

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	教授（工学修士）	氏名	城之内 忠正
所属学会	日本流体力学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	1. 平成 17 年度 選択式の e-Learning システムを使った基礎学力の養成． 2. 平成 18 年度 Web 学習システム上の論理回路演習用の論理素子オブジェクト（プログラム）の作成 3. 平成 19 年度 コンピュータの仕組みを理解させるためのサンプルコンピュータ ASC の設計 4. 平成 19 年度 Web 学習システムに導入したロゴ・プログラミング環境によるアルゴリズム教育 5. 平成 20 年度 問題解決と仕事の進め方の一般手法である猫頭式の開発 6. 平成 20 年度 ゼミ教育へのマインドマップの導入			
2	作成した教科書、教材、参考書	1. 平成 17 年度 選択式の e-Learning 用コンテンツの作成 http://eis.yokkaichi-u.ac.jp/WBT/main.html （SPI のテスト） 2. 平成 18 年度 Web 学習システム上の論理回路演習用教材の作成 http://eis.yokkaichi-u.ac.jp/WBT/main.html （Web を使った学習 = > 論理回路） 3. 平成 19 年度 Web 学習システム上の CPU 回路演習教材の作成 http://eis.yokkaichi-u.ac.jp/WBT/main.html （Web を使った学習 = > 論理回路） 4. 平成 19 年度 Web 学習システムへのロゴ・プログラミング環境の導入 http://eis.yokkaichi-u.ac.jp/WBT/main.html （Web を使った学習 = > アルゴリズム） 5. 平成 20 年度 問題解決と仕事の進め方の一般手法である猫頭式の開発 http://eis.yokkaichi-u.ac.jp/WBT/catshead.html			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	1. 平成 19 年度 初級シスアド講座（夏期集中講座）の運営・講師 2. 平成 20 年度 初級シスアド講座（夏期集中講座）の運営・講師 3. MOS2007 資格試験を学内において開催できるように学内環境を整備した			

研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
論文					
ゲームつくりで学ぶオブジェクト指向 開発	単著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 2 号		49 頁 ~ 64 頁
スクリプトを使ったテスト駆動プロト タイプ開発 設計仕様としてのテスト コード	単著	平成 19 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 10 巻第 2 号		49 頁 ~ 61 頁
猫頭式プログラミングの応用: 仕事の進 め方	単著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 1 号		39 頁 ~ 48 頁
猫頭式プログラミングにマインドマッ プを応用する	単著	平成 22 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 2 号		1 頁 ~ 7 頁
主な学会活動					
発表(報告)名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
なし					
社会における主な活動					
なし					

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	特任教授(修士(資源化学研究科))	氏名	高橋 正昭
所属学会	廃棄物資源循環学会、環境教育学会、水環境学会、三重県公衆衛生学会					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		学生の理解を容易とするための実習や下水処理場や公的機関の研究施設等への現地視察を取り入れた。			
2	作成した教科書、教材、参考書		たえず技術書物のコピーおよびワープロを用いた手作り資料作成した。教科書として環境衛生学の改訂版を発刊した。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		教育実習の成果を環境教育学会において発表した。			
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし			
研究活動						
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
著書						
公害防止管理者試験「水質」短期合格テキスト&問題集	共著	平成 19 年 4 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭、田中正直	131 頁 ~ 237 頁	
改訂版公害防止管理者試験水質短期合格テキスト&問題集	共著	平成 21 年 6 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭、田中正直	102 頁 ~ 285 頁	

改訂環境衛生学	共著	平成 21 年 9 月	三恵社	北畠正義、高橋正昭、武本行正	1 頁 ~ 101 頁
りん資源の回収と有効利用	共著	平成 21 年 11 月	サイエンス&テクノロジー	大竹久夫監修、著者 41 名	111 頁 ~ 126 頁
汚泥の処理とリサイクル技術	共著	平成 22 年 1 月	NTS 社	高橋正昭ほか著者 20 名、	223 頁 ~ 236 頁
持続可能な三重を目指した低炭素社会の構築に向けて (研究報告書)	共著	平成 22 年 3 月	サステナビリティ研究所	新田義孝、千葉賢、高橋正昭ほか多数	第 1 章 1-1
論文					
Technique for Recovering Sodium phosphate from incinerated sewage sludge	共著	平成 17 年 5 月	Proceedings of 5 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and environmental technologies, Wellington	Takahashi Masaaki, Sato Kunihiko, Kato Susumu, Enjyoji Hideo, Nakahara Keisuke	8 頁 ~ 11 頁
下水処理汚泥等からのリン回収技術について	単著	平成 17 年 6 月	再生と利用 (下水汚泥資源利用協議会誌) Vol.28No.108		57 頁 ~ 63 頁
Technique for recovering sodium phosphate from incinerated ash of sewage sludge	共著	平成 18 年 9 月	Proceedings of 4 th i-CIPEC	Takahashi Masaaki, Sato kunihiko, Kato Susumu, Enjyoji Hideo, Nakahara Keisuke	511 頁 ~ 514 頁
Technique for recovering sodium phosphate from charcoal of sewage sludge	共著	平成 18 年 11 月	Proceedings of 7 th international conference on Ecobalance	Takahashi Masaaki, Sato kunihiko, Kato Susumu, Enjyoji Hideo, Nakahara Keisuke	675 頁 ~ 678 頁
Application of Carbonization Technique for Tyre Waste Recycle	共著	平成 19 年 5 月	Proceedings of 6 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technology (APCSEET2007)	Takahashi Masaaki, Okui Masayoshi, Shirahige Nariyoshi, Iida Katsumi, Sato Kunihiko	RXN5
Technique for Recovering Phosphorus from Sewage Sludge,	共著	平成 19 年 7 月	Proceedings of Advances in Ecomaterials (ICEM8 2007)	Masaaki Takahashi, Kunihiko Sato, Susumu Kato, Hideo Enjyoji	389 頁 ~ 395 頁
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成 19 年 9 月	Proceedings of International Symposium on EcoTopia Science	Masaaki Takahashi, Kayoko Awaya, Mikihiro Ioka, Yukimasa Takemoto	990 頁 ~ 994 頁
英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について	共著	平成 19 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 1 号	高橋正昭、井岡幹博、千葉賢	35 頁 ~ 42 頁
英虞湾物質循環調査研究報告書 ゆたかな里海の創造に向けて	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査研究報告書ゆたかな里海の創造に向けて 三重県	高橋正昭、他 45 名	

英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について(第2報)	共著	平成20年3月	四日市大学環境情報論集 第11巻第2号	高橋正昭、井岡幹博、千葉賢	19頁~26頁
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成20年3月	四日市大学環境情報論集 第11巻第2号	Masaaki Takahashi, Kayoko Awaya, Mikihiro Ioka, Yukimasa Takemoto	27頁~31頁
集水域における土地利用と海域への負荷	共著	平成20年5月	海洋と生物、Vol30-3 (176)、生物研究社	高橋正昭、井岡幹博、千葉賢、篠田成郎	341頁~347頁
英虞湾の潮止め池における海水の移動および栄養塩の挙動	共著	平成20年9月	四日市大学環境情報論集 第12巻第1号	高橋正昭、井岡幹博、千葉賢	29頁~38頁
Nutrients Transfer between the Sea and Artificially Enclosed Waters	共著	平成20年9月	Proceedings of Mie-Bioforum 2008,Shima-Isobe	高橋正昭、井岡幹博、千葉賢、国分秀樹	567頁~572頁
四日市富田地区における地下水汚染について	共著	平成21年3月	四日市大学環境情報論集 第12巻第2号	高橋正昭、栗屋かよ子、井岡幹博、武本行正	39頁~42頁
夏季環境スクール(モンゴル研修)の学習効果	単著	平成21年3月	四日市大学環境情報論集 第12巻第2号		31頁~38頁
地下水中ヒ素の簡易分析について	共著	平成21年9月	四日市大学環境情報論集 第13巻第1号	高橋正昭、栗屋かよ子、井岡幹博、武本行正	95頁~100頁
Recycle Technique of Iron Phosphate Containing Sludge	共著	平成21年12月	Proceedings of R'09 Twin World Congress in Nagoya,	高橋正昭、武本行正、深谷百合子	267頁
Municipal Waste Treatment in Japan	単著	平成22年1月	Proceedings of International Symposium on a Sustainable Future (ISSF-2010)		220頁~223頁
水熱処理による炭化汚泥からのリン回収	共著	平成22年3月	四日市大学環境情報論集 第13巻第2号	高橋正昭、武本行正	9頁~12頁

主な学会活動

発表(報告)名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
ハマグリの生息と干潟の特性	共同	平成17年5月	日本環境教育学会 京都教育大学(京都市)
下水汚泥焼却灰からのリン酸塩回収法	共同	平成17年7月	第3回 ICMAT(シンガポール)
浸漬型簡易重力ろ過装置	共同	平成17年7月	1st IWA 国際会議(シンガポール)

炭化物有効利用の現況	共同	平成 17 年 9 月	第 5 回環境技術学会（大阪市）
廃タイヤの炭化による資源化方法,	共同	平成 17 年 11 月	第 16 回廃棄物学会（仙台市）
炭化汚泥からのリン酸塩回収方法	共同	平成 17 年 11 月	第 16 回廃棄物学会（仙台市）
Trend of visibility during last 40 years based on meteorological data	共同	平成 17 年 12 月	4 th AAC（ムンバイ）インド
簡単な大域観測法の開拓	共同	平成 18 年 8 月	日本環境教育学会 北海道大学（札幌市）
下水汚泥からのリン回収技術	共同	平成 18 年 9 月	第 6 回環境技術学会 龍谷大学（大津市）
Technique for recovering sodium phosphate from incinerated ash of sewage sludge	共同	平成 18 年 9 月	4 th i-CIPEC 京都大学（京都市）
Application of carbonization technique for tyre waste	共同	平成 18 年 9 月	SETAC Asia/pacific 2006 北京大学（中国）
焼却灰の乾燥における 6 価クロム生成	共同	平成 18 年 11 月	第 17 回廃棄物学会（北九州市）
Technique for recovering sodium phosphate from charcoal of sewage sludge	共同	平成 18 年 11 月	7 th international conference on Ecobalance（つくば市）
大矢知処分場周辺地下水の調査結果について	共同	平成 19 年 1 月	第 59 回三重県公衆衛生学会（津市）
Application of Carbonization Technique for Tyre Waste Recycle	共同	平成 19 年 5 月	6 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technology (APCSEET2007)バンコク（タイ）
簡易試験法を用いた廃棄物処分場周辺の地下水調査事例	共同	平成 19 年 5 月	日本環境教育学会第 18 回大会 鳥取環境大学（鳥取市）
Technique for Recovering Phosphorus from Sewage Sludge	共同	平成 19 年 7 月	Advances in Ecomaterials (ICEM8 2007), London（英国）
下水汚泥の乾燥処理による資源化	共同	平成 19 年 11 月	第 18 回廃棄物学会 つくば国際会議場（つくば市）
廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 19 年 11 月	第 18 回廃棄物学会 つくば国際会議場（つくば市）
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共同	平成 19 年 11 月	International Symposium on EcoTopia Science, Nagoya 名古屋大学（名古屋市）
英虞湾の潮止め池における海水の挙動	共同	平成 19 年 11 月	'07 SAS Intelligent Symposium, 東海大学（平塚市）

英虞湾集水域における栄養塩の負荷の現況について	共同	平成 20 年 3 月	第 42 回日本水環境学会年会 名古屋大学 (名古屋市)
防潮堤により閉め切られた池の水質挙動	共同	平成 20 年 3 月	第 42 回日本水環境学会年会 名古屋大学 (名古屋市)
廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 20 年 3 月	第 42 回日本水環境学会年会 名古屋大学 (名古屋市)
大学内及び周辺地域における環境実地教育	共同	平成 20 年 8 月	日本環境教育学会第 19 大会 学習院女子大学 (東京都)
Nutrients transfer between the sea and artificially enclosed waters	共同	平成 20 年 9 月	Mie Bioforum 2008, 3 rd Sep. Shima-Isobe 志摩市磯部町
Nutrients transfer between the sea and artificially enclosed waters	共同	平成 20 年 10 月	EMECS-8, 27th Oct. Shanghai 上海
リン酸鉄含有汚泥の資源化	共同	平成 20 年 11 月	第 19 回廃棄物学会 京都大学 (京都市)
四日市富田地区における地下水汚染について	共同	平成 21 年 1 月	第 61 回三重県公衆衛生学会総会 伊勢市生涯学習センター (伊勢市)
Municipal Waste Treatment in Japan	単独	平成 21 年 1 月	International Symposium on a Sustainable Future (ISSF-2010) (インド、ムンバイ)
モンゴル研修を終えて	共同	平成 21 年 7 月	日本環境教育学会第 20 回大会 東京農工大学
水熱処理による炭化汚泥からのリン回収	共同	平成 21 年 9 月	第 20 回廃棄物資源学会 名古屋大学
Recycle Technique of Iron Phosphate Containing Sludge	共同	平成 21 年 9 月	R'09 Twin World Congress in Nagoya 名古屋大学
Phosphorus Recovering from Carbonized Sewage Sludge by Hydrothermal Processes	共同	平成 21 年 11 月	International Conference of Eco-material (ICEM09) (京都市、けいはんなプラザ)
社会における主な活動			
平成 17 年 4 月～平成 19 年 12 月	閉鎖性海域における環境創生プロジェクト (三重県地域結集型共同研究事業、三重県産業支援センター) 雇用研究員		
平成 18 年 3 月～平成 20 年 3 月	バイオマス焼却灰の再資源化による持続可能なバイオマス生産の要素技術開発評価委員 (NEDO 王子製紙株)		
平成 19 年 4 月～平成 22 年 5 月 (現在に至る)	水環境学会東海北陸支部理事		
平成 20 年 12 月～平成 21 年 3 月	NEDO 委託平成 20 年度「未利用資源からのリン、カリウムの省エネルギー型回収技術開発の先導調査」委員会ワーキンググループ員		
平成 21 年 4 月～平成 22 年 5 月 (現在に至る)	大矢知・平津事案に係る三者協議委員 (三重県)		

平成 21 年 9 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	ゴミ処理施設建設検討委員会会長（松阪市）
平成 21 年 11 月	JICA 依託「中央アジア水質モニタリング」研修講師（ICETT からの依頼、11 月 13 日）
平成 22 年 2 月	北勢浄化センター汚水処理業務委託プロポーザル技術評価委員会会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	教授（農学博士）	氏名	武本 行正
所属学会	廃棄物資源循環学会、環境教育学会、環境学会、土木学会、陸水学会、三重県公衆衛生学会					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		環境測定・実験では、学生の理解を容易とするための現場水質測定実習を取り入れた。授業のための実習テキスト（水質分析）を作成した。			
2	作成した教科書、教材、参考書		公害防止管理者試験テキストとして、公害総論と水質を共同で出版し、環境工学の授業で学生に対して教授した。環境測定・実験では水質分析のための実験操作の手引きテキストを作成した。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		教育の方法や実践の経験、実験結果（大気汚染・水質汚濁）を学部紀要（環境情報論集）や環境学会、環境教育学会等において発表した。また、FMよっかいちやCTY（四日市ケーブルビ）など放送機関において、三重県の環境状況などを報告した。			
4	その他教育活動上特記すべき事項		環境学習実践活動としての学内エコ活動の内、主として緑化活動の指導を平成 21 年より開始した。			
研究活動						
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
著書						
公害防止管理者試験「水質」短期合格テキスト&問題集	共著	平成 19 年 4 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭、田中正明	3 頁～130 頁	
公害防止管理者試験「公害総論」短期合格テキスト&問題集	共著	平成 20 年 4 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正	2 頁～230 頁	

改訂版・公害防止管理者試験「水質」短期合格テキスト&問題集	共著	平成 21 年 4 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭、田中正明	3 頁 ~ 100 頁、287 頁 ~ 350 頁
改訂 環境衛生学	共著	平成 21 年 9 月	三恵社	北畠正義、高橋正昭、武本行正	54 頁 ~ 89 頁
論文					
Analysis of Mass Transfer in an Inner Bay of Japan using the Box Model	共著	平成 17 年 5 月	Proceedings of 5 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and environmental technologies, Wellington (NZ)	Y.Takemoto, M.Ioka and S.Chiba	45 頁 ~ 51 頁
Analysis of Mass Transfer in the Ago Bay using the Box Model	共著	平成 19 年 5 月	Proceedings of 6 th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technology (APCSEET2007) Kasetsart Univ., Bangkok, Thailand	Y.Takemoto, M.Ioka and S.Chiba	MMD4, 1 頁 ~ 6 頁
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成 19 年 9 月	Proceedings of International Symposium on EcoTopia Science (ISETS07)	Masaaki Takahashi, Kayoko Awaya, Mikihiro Ioka, Yukimasa Takemoto	990 頁 ~ 994 頁
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	Masaaki Takahashi, Kayoko Awaya, Mikihiro Ioka, Yukimasa Takemoto	27 頁 ~ 31 頁
Economic Aspects of Environmental Investment in Plant Facilities in Yokkaichi	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	Y.Takemoto and H.Kitou	45 頁 ~ 54 頁
Diffusion Field Computations of Sulfur Dioxide in Yokkaichi in the Past	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	Y.Takemoto, Y.Oka, H.Kitou and K.Ohkura	33 頁 ~ 43 頁
大気汚染調査と環境教育	共著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号	武本行正、矢口芳枝、谷崎智子	43 頁 ~ 61 頁
四日市富田地区における地下水汚染について	共著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号	高橋正昭、粟屋かよ子、井岡幹博、武本行正	39 頁 ~ 42 頁
河川水質調査と環境教育	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 1 号	武本行正、谷崎智子	71 頁 ~ 97 頁
Recycle Technique of Iron Phosphate Containing Sludge	共著	平成 21 年 9 月	R'09 Twin World Congress and World Resources Forum, Nagoya	M.Takahashi, Y.Takemoto and Y.Hukaya	No.267, pp.1-2
地下水中のヒ素の簡易分析について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	高橋正昭、粟屋かよ子、井岡幹博、武本行正、郭鵬	95 頁 ~ 100 頁

三重県の調査に基づいた四日市大矢知・平津地内不法投棄の現状について	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	井岡幹博、高橋正昭、粟屋かよ子、武本行正	11 頁～23 頁
水熱法による炭化污泥からのリン回収	共著	平成 22 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 2 号	高橋正昭、武本行正	9 頁～12 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表等					
環境情報学部の PR 活動と今後の展望	単独	平成 17 年 12 月	第 7 回環境情報学部学科懇談会、東京家政大学（2005 年 12 月、東京）		
地域拠点大学発表とブース展示	共同	平成 18 年 3 月	エネルギーフェア教育 2006、科学技術館（千代田区、東京）、エネルギー環境教育情報センター（東京）		
大矢知平津地内廃棄物不法投棄・まとめと今後の展望	共同	平成 18 年 3 月	大矢知平津地内廃棄物不法投棄第 1 回シンポジウム、不法投棄を考える会（四日市）		
伊勢湾の海況、伊勢湾総合対策協議会 e-フォーラム“伊勢湾を語る”	単独	平成 18 年 7 月	e-フォーラム“伊勢湾を語る”の分担執筆（三重県）		
大矢知・平津地内産業廃棄物不法投棄の経緯と住民の対応	共同	平成 18 年 11 月	粟屋かよ子・高橋正昭・井岡幹博・武本行正、北九州国際会議場、廃棄物学会（北九州市）		
大矢知処分場周辺地下水の調査結果について	共同	平成 19 年 1 月	第 59 回三重県公衆衛生学会総会、津・三重県立看護大学（津市）		
簡易試験法を用いた廃棄物処分場周辺の地下水調査事例	共同	平成 19 年 5 月	日本環境教育学会第 18 回大会、鳥取環境大学（鳥取市）		
Diffusion Field Computations of Sulfur Dioxide in Yokkaichi in the Past	単独	平成 19 年 9 月	The Clean Technology Initiative Workshop on Energy Efficiency for Asian Countries, 27 Sept. 2007 (held at Yokkaichi Univ. and ICETT, Yokkaichi)		
Economic Aspects of Environmental Investment in Yokkaichi	単独	平成 19 年 9 月	The Clean Technology Initiative Workshop on Energy Efficiency for Asian Countries, 27 Sept. 2007 (held at Yokkaichi Univ. and ICETT, Yokkaichi)		
大気汚染と水域の流動拡散	共同	平成 19 年 9 月	京都大学農学部カナート会第 8 回年次交流セミナー2007、キャンパスプラザ京都（京都）		
四日市の大気環境(特に PM 微粒子)ならびに伊勢湾の海の状況	単独	平成 19 年 11 月	『四日市の今を語る』四日市商工会議所連続講座		

廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 19 年 11 月	第 18 回廃棄物学会、つくば国際会議場（つくば市）
Ground Water and Soil Pollution near Ohyachi-Heizu Waste Disposal Site	共同	平成 19 年 11 月	International Symposium on EcoTopia Science, Nagoya 名古屋大学（名古屋市）
廃棄物処分場周辺地域の水質・土壌汚染について	共同	平成 20 年 3 月	第 42 回日本水環境学会年会、名古屋大学（名古屋市）
工場起因の SO ₂ 拡散と健康被害のシミュレーション	共同	平成 20 年 5 月	第 65 回全国大会講演集、鬼頭浩文・武本行正・中野諭・酒井祐司・定方正毅、関西大学、経済政策学会
大学内及び周辺地域における環境実地教育	共同	平成 20 年 8 月	日本環境教育学会第 19 回大会、学習院女子大学（東京都）
四日市における過去の SO ₂ 濃度分布推計 拡散シミュレーションと線形回帰分析	共同	平成 20 年 9 月	2008 大会講演論文集、鬼頭浩文・武本行正・中野諭・酒井祐司・定方正毅、神戸大学、日本流体力学会
四日市富田地区における地下水汚染について	共同	平成 21 年 1 月	第 61 回三重県公衆衛生学会総会、伊勢市生涯学習センター（伊勢市）
水熱処理による炭化汚泥からのリン回収	共同	平成 21 年 9 月	第 20 回大会講演論文集、廃棄物資源循環学会 323 頁～324 頁
社会における主な活動			
平成 9 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	核融合科学研究所共同研究員、プラズマ核融合学会代議員		
平成 10 年 4 月～平成 18 年 3 月	地域研究開発促進拠点支援事業（R S P 事業）に係る成果活用促進会議委員		
平成 10 年 4 月～平成 18 年 3 月	地域研究開発促進拠点支援事業（R S P 事業）に係る成果活用促進会議コーディネーター		
平成 11 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	雨水資源化システム学会評議員		
平成 11 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	みえ新産業創造交流会（環境分野）部会員		
平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月	みえサイエンス・アカデミー代表者会議常任委員		
平成 13 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	伊勢湾学セミナー設置運営懇談会委員		
平成 13 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県自動車排出窒素酸化物等総量削減計画策定協議会幹事会委員		
平成 14 年 4 月～平成 19 年 12 月	閉鎖性海域における環境創生プロジェクト（三重県地域結集型共同研究事業、三重県産業支援センター）共同研究推進委員		
平成 15 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県環境審議会環境影響評価委員会委員		
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	流体力学会年会 環境流体オーガナイザー		

平成 17 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	いなべ市環境審議会会長・水道水源保護審議会委員
平成 18 年 4 月～平成 21 年 5 月	三重県立朝明高校・学校評議員
平成 18 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	廃棄物資源循環学会 東海北陸支部常議員
平成 19 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	四日市市環境審議会専門部会部会長
平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県公害審査会委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	教授（博士（農学））	氏名	田中 正明
所属学会	国際珪藻学会、日本陸水学会、日本藻類学会、日本珪藻学会、日本プランクトン学会、日本甲殻類学会、日本植物分類学会、日本河川湖沼研究協会、日本 BICER 協会					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<ul style="list-style-type: none"> ・公害防止管理者、生物分類技能検定等の合格をめざした実験、実習を組み入れた指導につとめた。 ・自己の意見を正確な、正しい文章として表現する方法を修得させることで、入社後の即戦力となり得るよう指導した。 			
2	作成した教科書、教材、参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎生物学 64 頁（志学出版） ・基礎生態学 90 頁（志学出版） ・湖沼学 117 頁（三恵社） ・海洋環境学 70 頁（三恵社） ・森林環境学 72 頁（三恵社） ・プランクトン分類の手引き 110 頁（千曲印刷） ・公害防止管理者試験（水質）短期合格テキスト&問題集 347 頁（日本能率協会マネジメントセンター） ・公害防止管理者試験（水質）短期合格テキスト&問題集（改訂新版）350 頁（日本能率協会マネジメントセンター） 			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		<ul style="list-style-type: none"> ・自然史セミナー（国立科学博物館、茨城大学、四日市大学）大学院生を対象とした陸水域の生物研究方法の研修を行った。（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター）平成 20 年 3 月 			
4	その他教育活動上特記すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学希望者への英論文の輪読 ・ゼミ生と行政機関研究所との合同の河川調査を実施し、学生の知識、技術の向上と報告書の作成による経験を積ませた。 			
研究活動						
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数	
論文						
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 336 報 カネサント沼	単著	平成 17 年 5 月	雑誌水 第 47 巻第 5 号		59 頁～61 頁	
赤坂御用地に点在する庭園池沼群の陸水生物相	共著	平成 17 年 5 月	国立科学博物館専報 第 39 号	武田正倫、永野真理子	515 頁～530 頁	

秋篠宮邸内庭園池の陸水生物相	共著	平成 17 年 5 月	国立科学博物館専報 第 39 号	武田正倫、永野真理子	531 頁 ~ 546 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 337 報 湯沸沼	単著	平成 17 年 5 月	雑誌水 第 47 巻第 6 号		36 頁 ~ 40 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 338 報 八島ヶ池	単著	平成 17 年 6 月	雑誌水 第 47 巻第 7 号		38 頁 ~ 40 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 339 報 育素多沼	単著	平成 17 年 7 月	雑誌水 第 47 巻第 8 号		61 頁 ~ 64 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 340 報 長沼	単著	平成 17 年 8 月	雑誌水 第 47 巻第 9 号		61 頁 ~ 64 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 341 報 月沼	単著	平成 17 年 9 月	雑誌水 第 47 巻第 11 号		67 頁 ~ 71 頁
諏訪池（三重県）の珪藻類	共著	平成 17 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 1 号	永野真理子、横井友秋	23 頁 ~ 46 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 342 報 菅沼	単著	平成 17 年 10 月	雑誌水 第 47 巻第 12 号		62 頁 ~ 65 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 343 報 小沢沼	単著	平成 17 年 11 月	雑誌水 第 47 巻第 13 号		62 頁 ~ 67 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 344 報 聖湖	単著	平成 17 年 12 月	雑誌水 第 47 巻第 15 号		61 頁 ~ 66 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 345 報 姨捨大池	単著	平成 18 年 1 月	雑誌水 第 48 巻第 1 号		61 頁 ~ 65 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 346 報 姨捨下池	単著	平成 18 年 2 月	雑誌水 第 48 巻第 3 号		63 頁 ~ 66 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 347 報 白鷹琵琶池	単著	平成 18 年 3 月	雑誌水 第 48 巻第 4 号		79 頁 ~ 81 頁
三重県紀北町の諏訪池に関する陸水学的研究	共著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 2 号	横井友秋、永野真理子	33 頁 ~ 40 頁
日本産鰓脚類の生物地理的現状	共著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 2 号	永野真理子、小鹿亨	41 頁 ~ 48 頁
皇居の内濠より得られた原生動物、輪虫類、鰓脚類および橈脚類	共著	平成 18 年 3 月	国立科学博物館専報 第 35 号	武田正倫、永野真理子	419 頁 ~ 439 頁

プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第348報 どじょう沼	単著	平成18年4月	雑誌水 第48巻第5号		36頁～40頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第349報 板橋沼	単著	平成18年5月	雑誌水 第48巻第6号		84頁～86頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第350報 榛ノ木夫婦沼	単著	平成18年6月	雑誌水 第48巻第7号		63頁～65頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第351報 苔沼	単著	平成18年7月	雑誌水 第48巻第8号		38頁～40頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第352報 白鷹大沼	単著	平成18年8月	雑誌水 第48巻第10号		80頁～84頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第353報 曲沼	単著	平成18年9月	雑誌水 第48巻第11号		84頁～88頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第354報 荒沼	単著	平成18年10月	雑誌水 第48巻第12号		72頁～77頁
森林環境学	単著	平成18年10月	三恵社		1頁～72頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第355報 柳久保池	単著	平成18年11月	雑誌水 第48巻第13号		68頁～73頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第356報 高浪池	単著	平成18年12月	雑誌水 第48巻第15号		86頁～90頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第357報 鏡池	単著	平成19年1月	雑誌水 第49巻第1号		84頁～88頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第358報 五月池	単著	平成19年2月	雑誌水 第49巻第3号		78頁～81頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第359報 鍋越沼	単著	平成19年3月	雑誌水 第49巻第4号		68頁～73頁
日本産の鰓脚類タマミジンコ科(Moinidae)の分類学的整理	共著	平成19年3月	四日市大学環境情報論集 第10巻第1・2号	小鹿亨	63頁～76頁
北海道礼文島の久種湖で得られた珪藻類について	共著	平成19年3月	四日市大学環境情報論集 第10巻第1・2号	永野真理子	77頁～104頁

プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第360報 田谷地沼	単著	平成19年4月	雑誌水 第49巻第5号		64頁～69頁
公害防止管理者試験(水質)テキスト	共著	平成19年4月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭	1頁～347頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第361報 長面浦	単著	平成19年5月	雑誌水 第49巻第6号		34頁～39頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第362報 富士沼	単著	平成19年6月	雑誌水 第49巻第7号		74頁～77頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第363報 漆沢長沼	単著	平成19年7月	雑誌水 第49巻第8号		79頁～82頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第364報 青沼	単著	平成19年8月	雑誌水 第49巻第10号		72頁～76頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第365報 相野沼	単著	平成19年9月	雑誌水 第49巻第11号		80頁～84頁
日本産の <i>Latonopsis kokuboi</i> KADOTA,1961 の形態について	共著	平成19年9月	四日市大学環境情報論集 第11巻第1号	小鹿亨	1頁～10頁
<i>Leydigia louis nipponica</i> TANAKA et OJIKI n.subsp.及び <i>Alona eximia</i> KISER,1948 の出現	共著	平成19年9月	四日市大学環境情報論集 第11巻第1号	小鹿亨	11頁～20頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第366報 白沼	単著	平成19年10月	雑誌水 第49巻第12号		78頁～82頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第367報 化女沼	単著	平成19年11月	雑誌水 第49巻第14号		80頁～84頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第368報 商人沼	単著	平成19年12月	雑誌水 第49巻第15号		83頁～88頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第369報 桁倉沼	単著	平成20年1月	雑誌水 第50巻第1号		88頁～91頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第370報 雄国沼	単著	平成20年2月	雑誌水 第50巻第3号		88頁～91頁

プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 371 報 船形長沼	単著	平成 20 年 3 月	雑誌水 第 50 巻第 4 号		82 頁 ~ 85 頁
高浪池の珪藻類	単著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号		55 頁 ~ 70 頁
油ヶ淵の珪藻類	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	糸篤志	71 頁 ~ 88 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 372 報 貝沼	単著	平成 20 年 4 月	雑誌水 第 50 巻第 5 号		76 頁 ~ 79 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 373 報 細沼	単著	平成 20 年 5 月	雑誌水 第 50 巻第 6 号		84 頁 ~ 88 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 374 報 苔沼	単著	平成 20 年 6 月	雑誌水 第 50 巻第 7 号		88 頁 ~ 90 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 375 報 田螺沼	単著	平成 20 年 7 月	雑誌水 第 50 巻第 8 号		70 頁 ~ 72 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 376 報 皿小屋沼	単著	平成 20 年 8 月	雑誌水 第 50 巻第 10 号		68 頁 ~ 71 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 377 報 じゅんさい沼	単著	平成 20 年 9 月	雑誌水 第 50 巻第 11 号		88 頁 ~ 91 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 378 報 カスベ沼	単著	平成 20 年 10 月	雑誌水 第 50 巻第 12 号		82 頁 ~ 86 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 379 報 イツヅカ沼	単著	平成 20 年 11 月	雑誌水 第 50 巻第 13 号		88 頁 ~ 91 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 380 報 鬼沼	単著	平成 20 年 12 月	雑誌水 第 50 巻第 15 号		70 頁 ~ 73 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 381 報 若畑池	単著	平成 21 年 1 月	雑誌水 第 51 巻第 1 号		58 頁 ~ 61 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 382 報 万福池	単著	平成 21 年 2 月	雑誌水 第 51 巻第 2 号		72 頁 ~ 64 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 383 報 天神池	単著	平成 21 年 3 月	雑誌水 第 51 巻第 4 号		72 頁 ~ 75 頁

アマモ (<i>Zostera marina</i> Linnaeus) に付着する珪藻類	単著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号		1 頁 ~ 12 頁
日本産の鰓脚類 (オナガミジンコ属 <i>Diaphanosoma</i>) の 3 種	共著	平成 21 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 2 号	小鹿亨	13 頁 ~ 30 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 384 報 藤次原池	単著	平成 21 年 4 月	雑誌水 第 51 巻第 5 号		66 頁 ~ 70 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 385 報 上池	単著	平成 21 年 5 月	雑誌水 第 51 巻第 6 号		66 頁 ~ 69 頁
プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 第 386 報 下池	単著	平成 21 年 5 月	雑誌水 第 51 巻第 7 号		60 頁 ~ 63 頁
油ヶ淵の輪虫類	単著	平成 21 年 5 月	三河生物 第 1 巻第 1 号		1 頁 ~ 5 頁
日本淡水産動物プランクトン図鑑 (改正)	単著	平成 21 年 5 月	名古屋大学出版会		1 頁 ~ 584 頁
改訂版公害防止管理試験 (水質) 短期合格テキスト & 問題集	共著	平成 21 年 5 月	日本能率協会マネジメントセンター	武本行正、高橋正昭	1 頁 ~ 350 頁
ウグイ沼 (北海道) のプランクトン相について	単著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号		51 頁 ~ 66 頁
濁川 (北海道猿払) の珪藻類	単著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号		67 頁 ~ 80 頁
三重県四日市市の天然記念物「御池沼沢植物群落」の珪藻植生	共著	平成 21 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 1 号	西川健一	81 頁 ~ 94 頁
油ヶ淵の輪虫類	単著	平成 21 年 9 月	三河生物 第 1 巻第 1 号		45 頁 ~ 48 頁
オムサロ沼 (思沙留沼) の珪藻類	単著	平成 22 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 2 号		13 頁 ~ 24 頁
日本産鰓脚類の新産種 3 種及び稀種 2 種について	共著	平成 22 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 2 号	小鹿 亨	25 頁 ~ 38 頁
日本産の <i>Daphnia pulex</i> 及び <i>Daphnia Pulicaria</i> の系統について	共著	平成 22 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 13 巻第 2 号	大場裕一、小鹿 亨	39 頁 ~ 48 頁
油ヶ淵の珪藻類について	単著	平成 22 年 4 月	三河生物 第 1 巻第 2 号		8 頁 ~ 17 頁

主な学会活動			
発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等
愛知県の油ヶ淵の珪藻類	共同	平成 17 年 5 月	日本珪藻学会 第 26 回大会
三重県熊野灘沿岸の海跡湖の諏訪池底泥中から認められた珪藻類	共同	平成 17 年 5 月	日本珪藻学会 第 26 回大会
珪藻類から見た三重県四日市市に位置する天然記念物御池の保全について	共同	平成 17 年 5 月	日本珪藻学会 第 26 回大会
珪藻を用いた科学教育方法の一提案	共同	平成 17 年 5 月	日本珪藻学会 第 26 回大会
北海道湖沼の珪藻	共同	平成 18 年 5 月	日本珪藻学会 第 27 回大会
北海道北部の腐植性湖沼の珪藻植生	共同	平成 18 年 5 月	日本珪藻学会 第 27 回大会
高浪池の珪藻類	単独	平成 18 年 11 月	日本珪藻学会 第 26 回研究集会
水流による河川付着珪藻の剥離に関する実験結果	共同	平成 19 年 5 月	日本珪藻学会 第 28 回大会
雨竜沼の珪藻類について	共同	平成 19 年 11 月	日本珪藻学会 第 27 回研究集会
琵琶湖水草帯のミジンコ類について	共同	平成 19 年 11 月	日本河川湖沼研究協会年会
化女沼で得られた <i>Latonopsis</i>	単独	平成 19 年 11 月	日本河川湖沼研究協会年会
国内の湖沼における浮遊性珪藻類群集の長期的変化について(ミニシンポジウム)	単独	平成 20 年 10 月	日本珪藻学会 第 28 回研究集会
日本に新産出した鰓脚類の数種	単独	平成 20 年 11 月	日本河川湖沼研究協会年会
DNA による日本産ミジンコ類の検討	共同	平成 20 年 11 月	日本河川湖沼研究協会年会
雨竜沼で得た <i>Daphnia</i> について	単独	平成 20 年 11 月	日本河川湖沼研究協会年会
油ヶ淵の珪藻類	単独	平成 21 年 3 月	西三野生生物研究会大会
社会における主な活動			
平成 17 年 5 月		日本珪藻学会第 26 回大会委員長	
平成 17 年 5 月～平成 18 年 3 月		三重県朝明高等学校 学校評議員	
平成 17 年 5 月～平成 18 年 3 月		安城市教育研究会 講師	

平成 17 年 5 月～平成 19 年 4 月	財団法人臨海環境整備センター 内水悪臭起源発生機構調査委員会 委員長
平成 17 年 5 月～平成 19 年 4 月	三重県地域結集型共同研究事業委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 19 年 4 月	新矢作用水、羽布ダム水質調査検討委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 20 年 3 月	四日市市環境を考える市民会議 会長
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本珪藻学会運営委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本珪藻学会庶務幹事
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本河川湖沼研究協会 理事長
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	国土交通省ダム環境放流量研究委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	四日市市ごみ減量等推進審議会 会長
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	財団法人三重県環境保全事業団安全管理委員会 会長
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	国土交通省ダム発電放流量検討委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	財団法人ダム水源地整備センター ダム発電検討委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	国土交通省河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	国土交通省河川水辺の国勢調査（ダム湖版）マニュアル委員会 委員
平成 17 年 5 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	国土交通省設楽ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 委員
平成 17 年 7 月～平成 18 年 3 月	三重県立飯南高等学校 非常勤講師
平成 20 年 3 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県環境影響評価委員会 委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	西三河野生生物研究会 会長
平成 20 年 9 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県生活環境の保全に関する条例 95 条に規定する専門委員会 委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	教授（博士（工学））	氏名	千葉 賢
所属学会	日本流体力学会、土木学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>コンピュータのしくみ等を教える「コンピュータ科学」は、文系の学生にとっては理解の難しい部分があり、そのためにビジュアルな教材をなるべく用意し、実物を回覧するなどの工夫を行った。また、毎週、学習内容の小問題からなる理解度確認レポートを出席者全員に提出させ、それを朱筆訂正して翌週に戻した。授業評価は「やや難しい」という回答が多いが、文系が多数派の学部においては、適度な難易度レベルで授業を実施していると考えられる。</p> <p>2年次から始まるセミナーでは、在学中にパソコンのエキスパートになることを目標とさせており、パソコンを使ってデータを分析したり、報告書を作成したり、発表を行ったり、CG やプログラムを制作したりなどを行っている。特に発表技術には重点を置き、発表機会を多く与えている。その効果があつてか、卒業研究の合同発表会では、良い内容の発表を行えた。</p>			
2	作成した教科書、教材、参考書	C言語の実習科目「プログラミング2」において、学生が興味を持って取り組めるように、初心者でもグラフィックスを楽しむことのできる教材を準備した。この教材は、具体的には Win32API の関数群を知識が無くても呼び出して利用できるようにしたものである。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	英虞湾の環境問題の研究を行ってきた関係から、環境情報学部の学生達を中心に、海洋や陸域の環境調査に参加させた。また、平成20年8月には2泊3日間の行程で英虞湾環境研修を実施した。約10名の環境情報学部の学生が参加して、三重大生物資源学部や三重県水産研究所の施設を利用して、環境問題の学習を行った。平成21年度には、三重大生物資源学部の練習船「勢水丸」を共同利用した「伊勢湾海洋調査実習」を企画し、6月に実習を実施した。この授業は平成22年度から単位化され、正規の授業に組み入れられた。			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
英虞湾における鉛直混合強度の測定	共著	平成17年11月	海岸工学論文集 第52巻	長尾正之，橋本英資，高杉由夫，千葉賢，山形陽一	341頁～345頁

Environmental Monitoring System of Ago Bay	共著	平成 19 年 4 月	Oceanis, 33(3-4)	S.Chiba, Y.Yamagata, S.Ueno, S.Yuasa, O.Matsuda, T.Kato	151 頁 ~ 182 頁
Physical Model and Numerical Tests on Activation of Tidal Exchange by Bottom Roughness in the Ariake Sea	共著	平成 19 年 8 月	Proceedings of the 15th Congress of APD-LAHR	S.Yano, A.Tai, S.Chiba, Y.Kouyama, K.Fujita, T.Komatsu	108 頁 ~ 115 頁
Early Diagenetic Model for Sediment of Ago Bay Japan, Comparison between Steady State and Dynamic Calculation with Seasonal Variation	共著	平成 20 年 4 月	Ecological Modelling, Vol.215(1-3)	G.A.Anggara Kasih, S.Chiba, Y.Yamagata, Y.Shimizu, and K.Haraguchi	10 頁 ~ 39 頁
Application of the early diagenesis model to Ago Bay sediment, Japan: Comparison of the sediment characteristics between two observation sites	共著	平成 20 年 4 月	Global Environment Engineering Research, Vol 16	G.A.Anggara Kasih, S.Chiba, Y.Yamagata, Y.Shimizu, and K.Haraguchi	51 頁 ~ 61 頁
流動場の特徴と海水交換特性	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻第 3 号	千葉 賢, 山形 陽一	263 頁 ~ 271 頁
底質の特徴と底質悪化現象	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻第 3 号	山形 陽一, 千葉 賢, 原口 浩一, 清水 康弘, 百島 則行, 久野 章仁, 松尾 基之	283 頁 ~ 294 頁
基礎生産と動植物プランクトンの特徴	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻 第 3 号	増田 健, 千葉 賢, 谷村 篤, 畑 直 垂, 原口 浩一	328 頁 ~ 334 頁
集水域における土地利用と海域への負荷	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻第 3 号	高橋 正昭, 井岡 幹博, 千葉 賢, 篠田 成郎	341 頁 ~ 347 頁
英虞湾の物質循環と底質悪化原因の検討	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻第 3 号	千葉 賢, G. A. Anggara Kasih, 山形 陽一, 前川 行幸, 松田 治	348 頁 ~ 359 頁
水質の特徴と経年変化	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻第 3 号	原口浩一, 増田健, 山形陽一, 千葉賢	272 頁 ~ 282 頁
英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について (第 2 報)	共著	平成 20 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	高橋正昭, 井岡幹博, 千葉賢	19 頁 ~ 26 頁

Numerical model on the material circulation for coastal sediment in Ago Bay, Japan	共著	平成 21 年 4 月	Journal of Marine Systems, 77	G. A. Anggara Kasih, Satoshi Chiba, Youichi Yamagata, Yasuhiro Shimizu, Koichi Haraguchi	45 頁 ~ 60 頁
Effects of phytoplankton vertical migration on the formation of oxygen depleted water in a shallow coastal sea	共著	平成 22 年 4 月	Estuarine, Coastal and Shelf Science, 86	K. Haraguchi, T. Yamamoto, S. Chiba, Y. Shimizu, M. Nagao	441 頁 ~ 449 頁
報告書					
英虞湾の物質循環 (第 2 章)	単著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書		3 頁 ~ 82 頁
英虞湾の流動 (第 3 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	千葉賢, 山形陽一	83 頁 ~ 128 頁
英虞湾の水質 (第 4 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	原口浩一, 千葉賢, 清水康弘, 奥村宏征, 山形陽一, 増田健	129 頁 ~ 172 頁
英虞湾の底質 (第 5 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	山形陽一, 千葉賢, 清水康弘, G.A.Anggara Kasih, 百島則幸, 国分秀樹, 渥美貴史, 石樋由香, 原口浩一, 久野章仁, 松尾基之, 畑直亜	173 頁 ~ 268 頁
プランクトンと基礎生産 (第 6 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	増田健, 谷村篤, 千葉賢, 畑直亜, 田中正明, 原口浩一, 山形陽一	269 頁 ~ 312 頁
集水域の特徴と海域への負荷 (第 7 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	高橋正昭, 国分秀樹, 井岡幹博, 篠田成郎, 千葉賢	313 頁 ~ 352 頁
三重県における自然環境の変化 (海域)	共著	平成 21 年 3 月	持続可能な三重: その展望	新田義孝, 千葉賢, 他	193 頁 ~ 245 頁
主な学会活動					
発表 (報告) 名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
環境動態シミュレーション	単独	平成 17 年 11 月	三重県地域結集型共同研究事業「平成 17 年度成果報告会」, アスト津ホール		
Development of Three-Dimensional Hydrodynamic and Ecosystem Numerical Model for Ago Bay	共同	平成 18 年 5 月	EMECS 7 (第 7 回世界閉鎖性海域環境保全会議) ECSA 40, France		

Numerical Model on the Material Circulation for Coastal Sediment in Ago Bay Japan	共同	平成 18 年 5 月	EMECS 7 (第 7 回世界閉鎖性海域環境保全会議) ECSA 40, France
Environmental Monitoring System of Ago Bay	単独	平成 18 年 5 月	EMECS 7 (第 7 回世界閉鎖性海域環境保全会議) ECSA 40, France
A Model of Carbon and Nutrient Cycling in the Sediment of Ago Bay, Coupling of the Benthic System and Reaction of Early Diagenesis	共同	平成 18 年 8 月	International Conference on Ecological Modeling (ICEM2006), Yamaguchi
環境モニタリングシステムの開発とその利用	単独	平成 18 年 10 月	三重県地域結集型共同研究事業「平成 18 年度成果報告会」, アスト津ホール
環境モニタリングシステムによる環境問題解決への貢献	単独	平成 19 年 1 月	第 16 回沿環連ジョイントシンポジウム, 日大理工学部講堂
英虞湾物質循環マップから判定した各技術の環境再生効果	単独	平成 19 年 1 月	第 16 回沿環連ジョイントシンポジウム, 日大理工学部講堂
英虞湾の環境動態予測	単独	平成 19 年 2 月	英虞湾の再生を考えるシンポジウム 2007, 阿児アリーナ
英虞湾の環境動態予測 英虞湾の物質循環と環境動態予測モデル	単独	平成 19 年 9 月	三重県地域結集型共同研究事業「事業終了報告会」, アスト津ホール
Utilization and Future Perspective of Automatic Environmental Monitoring System in Ago Bay Restoration Project	共同	平成 19 年 11 月	2nd International Workshop on Management and Function Restoration Technologies for Estuaries and Coastal Seas, Ansan, Korea
Effects of phytoplankton vertical migration on the formation of oxygen depleted water in a shallow coastal sea	共同	平成 20 年 10 月	EMECS 8 (第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議), Shanghai
Nutrients, Organic Carbon and Oxygen Budget in Semi-Enclosed Ago Bay, Japan, Satoshi Chiba, G.A.Anggara Kasih, Yoichi Yamagata, Osamu Matsuda	共同	平成 20 年 10 月	EMECS 8 (第 8 回世界閉鎖性海域環境保全会議), Shanghai

社会における主な活動	
平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月	港湾空間高度化環境研究センター（国土交通省）伊勢湾環境情報検討委員会委員
平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月	科学技術交流財団（愛知県）河川環境情報ネットワーク研究会委員
平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月	三重県産業支援センター地域研究開発促進拠点支援事業「事業推進協議会」委員
平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月	港湾空間高度化環境研究センター（国土交通省）伊勢・三河湾における環境情報共有と環境教育推進について考える市民会議委員
平成 17 年 4 月～平成 20 年 3 月	三重県地域結集型共同研究事業共同推進委員
平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月	三重県産業廃棄物抑制等事業認定委員会
平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月	水環境学会中部支部理事
平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	英虞湾自然再生協議会・副代表
平成 22 年 5 月～（現在に至る）	練習船勢水丸共同利用運営協議会構成員

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	特任教授（工学博士）	氏名	新田 義孝
所属学会						
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントあるいはOHPを使用し、図表や静止画像あるいは講義のポイントを示しながら、対話形式の講義を実施し、講義終了時にあらかじめ配布してある用紙（A4.1 枚）に手書きで講義のあらまし（レジュメ）あるいは、講義の始めに黒板に記した課題について提出させ、コメントと評価（A,B,C,D）を記して次週の講義の前に返却する。 ・授業評価では、毎回の講義が一つのまとまりのある「講演」になっているので、分かりやすいと多くの学生より支持されている。 			
2	作成した教科書、教材、参考書		『電気エネルギー概論』依田正行編（オーム社）2009年12月刊。第1,2章執筆（12頁～42頁）			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		『小説 四日市大学 環境情報学部 新田ゼミ』北星堂書店（単行本 2005年8月10日刊）で、ゼミ内容を紹介し、当時の学生も「新田ゼミ」の体験談を寄稿した。			
4	その他教育活動上特記すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年9月にゼミ生主体に、東海地域の発電所等エネルギー施設見学会（1泊2日）を挙げる。 ・西暦偶数年夏期に、10日間の海外環境スクールを実施した（申請により2単位取得、2006年は豪州クィーンズランド大学、2008年はモンゴル・エコアジア環境大学にて実施） 			
研究活動						
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書						
小説 四日市大学 環境情報学部 新田ゼミ		単著	平成17年8月	北星堂書店		223頁
エネルギー絵事典		監修	平成18年7月	PHP 研究所		80頁

持続可能な地球をつくるマクロエンジニアリング	単著	平成 19 年 8 月	北星堂書店		209 頁
Learning to Live with the Environment	共著	平成 20 年 3 月	北星堂書店	Kaye Spark	86 頁を共同執筆
電気エネルギー概論	共著	平成 20 年 12 月	オーム社	依田正之編	121 頁～139 頁
論文					
地球温暖化防止へ 日本の役割	単独	平成 17 年 5 月	「旬刊 世界と日本」No. 1042	内外ニュース	1 頁～69 頁
コアプロジェクト：石炭を介した日豪補間環境保全プロジェクト	単独	平成 18 年 7 月	季刊 エネルギー総合工学 29 巻 2 号	(財)日本エネルギー工学研究所	55 頁～61 頁
中国で脱硫装置を普及させる動機作りへの挑戦	共著	平成 18 年 3 月	日本エネルギー学会誌 85 巻 3 号	定方正毅、松本聡、吉岡寛治	191 頁～196 頁
社会的にみた医療の技術革新とコストダウン	単独	平成 19 年 7 月	「病院」第 7 号 66 巻	医学書院	554 頁～558 頁
エネルギーリテラシー私論	単独	平成 20 年 3 月	「エネルギー環境教育」第 3 巻第 1 号	日本エネルギー環境学会誌	37 頁～41 頁
切り札は資源の開発と節約利用	単独	平成 20 年 8 月	「旬刊 世界と日本」No. 1121 内外ニュース	冊子	44 頁
持続可能な三重を目指した低炭素社会の構築に向けて	編著	平成 22 年 3 月	21 世紀のエネルギーを考える会・三重受託報告書	受託報告書(四日市大学研究機構 HP 掲載)	362 頁

主な学会活動

発表(報告)名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
A Possible Project Concept for Sustainable Development	単独	平成 17 年 5 月	The Fifth Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technologies. (Wellington NZ)
Recycling of coal ash to ameliorate acid soils	共同	平成 19 年 5 月	The Sixth Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technologies. (Bangkok, Thailand)

社会における主な活動

平成 13 年 6 月～平成 19 年 6 月	日本マクロエンジニアリング学会 理事長
平成 15 年 5 月 8 - 10 日	The Fourth Asia Pacific Conference of Sustainable Energy and Environmental Technologies 実行委員長(四日市市プラトンホテルにて開催)
平成 18 年 6 月～平成 22 年 5 月(現在に至る)	日本エネルギー環境教育学会 副会長

平成 19 年 6 月～20 年 1 月	内閣府原子力委員会専門委員
平成 19 年 6 月～平成 21 年 6 月	日本マクロエンジニアリング学会 副会長
平成 21 年 6 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本マクロエンジニアリング学会 会長

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	教授（文学修士）	氏名	播磨 良紀
所属学会	日本史研究会・大阪歴史学会・地方史研究協議会・織豊期研究会・中世史研究会・和歌山地方史研究会など				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<p>1. 出席カードによる講義後の質問受付および回答</p> <p>講義は一方通行になるため、質問を受け付けるようにしているが、なかなか質問が出されない。そこで、毎時質問・疑問・批判・感想、また講義の説明不足などがある場合、自由に出席カードに記載することを求めている。そして、次の時間にそれらに対する回答を講義の冒頭に述べる。多い場合は十数件の記載があることもあり、それにより学生の理解や受講意識などを把握している。</p> <p>2. 講義でのパワーポイントの使用</p> <p>できるだけ学生にイメージをもたせるため、写真や図版を多く用いたパワーポイントを作成して講義を行っている。パワーポイントを中心にして講義をすると、学生はノート・テイクも行わずに「ただ見ているだけ」状態になるので、最初に講義を行い、講義のまとめとして最後にそれを示す形態で毎回実施している。</p> <p>3. 「本日の講義用語集」の配布</p> <p>講義では、毎回プリントを作成して配布しているが、どうしても専門用語などの不理解により講義が難解になりやすい。そのため、毎回プリントに当日用いられる講義での専門用語などを解説・説明して、理解の便宜を図っている。</p> <p>4. ノート提出</p> <p>学生のノート・テイクを講義の最初時に口頭で指導はしているが、実際ノート・テイクが十分に行われていない。それを促すため、さらに学生の講義の理解度を見るために、半期に2～3度の講義中に提出を行わせる。そしてノート・テイクのアドバイスなどを行って学生にノートを返却している。その成果は今のところ判断しにくい、講義での学生の集中度が高まっているように見え、また受講姿勢も変化してきているように思われる。</p> <p>5. ゼミにおける『新マオーズ・ニュース』の刊行</p> <p>A4判1枚の両面印刷でゼミの毎時に発行したゼミニュース。ゼミの活性化・ゼミ学生への研究促進・ゼミ内の情報伝達のために作成し、内容は、ゼミ指導、また教員からのメッセージ、卒論準備報告会要旨・ゼミ生の感想、輪読会の輪読内容のまとめ（「輪読会のまど」）などからなる。2009年3月ゼミ担当をしなくなったため、90号で終刊。</p>			

<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>1. 「レポートをどうすればうまく書けるか」(『叢淵』22号、2008年3月) 四日市大学情報センターリーフレット『叢淵』に寄稿した学生向けのレポートの書き方をまとめた文章。「『書いてはいけない』レポート」「よいレポートを書くコツ」「よいレポートをつくるためには」とレポート作成の留意点などを述べた。これをもとに、「基礎セミナー」「卒業研究セミナー」などで、レポート指導を行っている。</p> <p>2. 『四日市学講座 四日市公害を語る - 野田之一氏と澤井余志郎氏へのインタビュー』(後掲著書) 「公害史」の講義でのインタビューをブックレットにしたもの。その後「公害史」がカリキュラム変更でなくなったため、「環境情報学特殊講義」「環境情報学概論1」「環境論」などで、四日市公害の歴史などを講義する時に用いている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>	<p>1. 『『教研』からFD教育～自分と周辺の教育実践』(愛知大学文学部FD研究会、平成18年11月22日、愛知大学文学部) 愛知大学文学部のFD研究会で、「教研」からFD教育へ 自分と周辺の教育実践」と題して、自分の短大時代から現在の四日市大学での教育実践、また四日市大学の現状などについて話した。なお、この講演録は『愛知大学文学部FD研究会通信2006』に収録されている。</p> <p>2. 環境情報学部社会環境デザイン学科の初年次教育の報告(平成19年2月15日、環境情報学部臨時教授会) 環境情報学部臨時教授会で、同学部内3学科の初年次教育についての実践を報告するフォーラムが開かれ、社会環境デザイン学科の初年次教育の取り組みについて報告した。なお、この内容については、『2006年度四日市大学環境情報学部初年次教育報告書』としてまとめ、学内の教員・職員に配布した。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>	<p>1. AO入試合格者への事前教育 平成14年以降、毎年AO入試合格者への事前教育を担当し、本の読み方・文章の書き方を指導している。事前に合格者にブックレット1冊を読ませ、手書きの400字詰め原稿用紙5枚のレポートを提出させ、当日に文章の書き方などを徹底的に指導・添削して、さらにコメントを加えて返却する。そして、内容の確認を行い、そして内容についての自分の意見・考えを出させ、討論をさせるという講義を行った。さらに、平成17年・18年度には、加えて「大学の学び方」という講義も行った。</p> <p>2. 1年次生に対する「講義の受け方」「レポートの書き方」の講義 平成21年度「環境情報学概論」で、1年生に対して「講義の受け方」「レポートの書き方」について講義をした。大学入学をしても、なかなか講義になじめずに、ノート・テイクも出来ない学生も増えてきているため、初年次教育の一環としてこのような講義を担当した。</p>

研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
秀吉を支えた武将 田中吉政 近畿・東 海と九州をつなぐ戦国史	共著	平成 17 年 9 月	サンライズ出版	太田浩司、内藤高玲、新行紀一、堀江 登志実、小和田哲男、中野等、森岡榮 一、田淵義樹	58 頁～63 頁
歴史考古学辞典	共著	平成 19 年 2 月	吉川弘文館	小野正敏、佐藤信、館野和己、 田辺征夫、他多数	辞典執筆で項目抽出困難な ため該当頁は示せない
愛知県史 資料編 12 織豊 2	共著	平成 19 年 3 月	愛知県	三鬼清一郎、加藤益幹、谷口央、太田 浩司・尾下成敏・山本浩樹・藤田達生、 伊藤真紹、下村信博、高橋修	437 頁～487 頁、537 頁～603 頁
熊野川町史 通史編	共著	平成 20 年 3 月	和歌山県新宮市	笠原正夫、竹中康彦、高橋修、弓倉弘 年、廣本満、他 22 名	51 頁～69 頁、428 頁～435 頁
古座町史料 捕鯨編	共著	平成 20 年 3 月	和歌山県東牟婁郡串本町	立花秀浩、小田康徳	ほぼ全体共同編集・執筆の ため、関わり、該当頁は示 せない
四日市学講座 四日市公害を語る - 野田之一氏と澤井余志郎氏へのインタ ビュー	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学・四日市学研究会	野田之一、澤井余志郎、粟屋かよ子	全体原稿化・編集のため、 該当頁は示せない
四日市学講座 戦国時代の北伊勢	共著	平成 20 年 3 月	四日市大学・四日市学研究会	竹田憲治	17 頁～35 頁、および全体原 稿化・編集
公害・環境問題史を学人のために	共著	平成 20 年 10 月	世界思想社	小田康徳、畑明郎、木野茂、津留崎 直美、早田光俊、村松昭夫、吉田克己、 達脇明子	133 頁～139 頁
年中行事大辞典	共著	平成 21 年 3 月	吉川弘文館	山田邦明、長沢利明、高埜利 彦、加藤友康、他多数	辞典執筆で項目抽出困難な ため該当頁は示せない

論文					
Plant Species and Soils Utilized as Famine Foods in Japan.	共著	平成 17 年 (月未詳)	Proceedings of the International Conference on Agricultural Heritage of Asia (ed.Y.L. Nene ,)	大倉克己	236 頁 ~ 242 頁
秀吉文書と戦争 小牧・長久手の戦いを中心に	単著	平成 18 年 5 月	藤田達生編『小牧・長久手の戦いの構造 戦争論上 』(岩田書院)		335 頁 ~ 377 頁
戦国・織豊期の四日市場の構造	単著	平成 18 年 8 月	『Mie history』第 17 号		13 頁 ~ 22 頁
「教研」から F D 教育へ - 自分と周辺の教育実践 -	単著	平成 19 年 3 月	『愛知大学文学部 F D 通信 2006』		1 頁 ~ 26 頁、および 26 頁 ~ 38 頁 (ディスカッション)
主な学会活動					
発表 (報告) 名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
戦国・織豊期の四日市場の構造	単独	平成 17 年 5 月	中世都市研究会三重大会準備会報告会		
中世都市研究会 2006 年三重大会シンポジウム「都市をつなぐ」討論司会	共同	平成 18 年 9 月	中世都市研究会 亀山隆と共同		
織田・豊臣政権期の北伊勢	単独	平成 19 年 11 月	四日市大学・四日市学研究会シンポジウム「戦国時代の北伊勢」		
書評川端泰幸『日本中世の地域社会と一揆』	共同	平成 20 年 5 月	和歌山地方史研究会・研究幹事勉強会 坂本亮太・武内善信との共同報告		
「天正十二年の戦いと羽柴秀吉文書」	単独	平成 20 年 9 月	長久手町郷土史研究会 25 周年大会		
社会における主な活動					
平成 5 年 4 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	四日市市立博物館評議委員 (平成 20 年 5 月 ~ 22 年 5 月現在に至る 副委員長)				
平成 10 年 4 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	織豊期研究会幹事				
平成 12 年 4 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	愛知県史織豊部会専門委員				
平成 15 年 6 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	古座町史編纂委員				
平成 16 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月	熊野川町史古代・中世史部会執筆委員				
平成 16 年 4 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	亀山市史古代・中世史部会執筆委員				
平成 19 年 6 月 ~ 平成 22 年 5 月 (現在に至る)	四日市市立図書館協議会委員				

平成 19 年 7 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	戦国・織豊期研究会代表幹事
平成 19 年 9 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	中世史研究会委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県史編さん専門委員
平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	豊田市史古代・中世部会執筆委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	教授（博士（理学））	氏名	吉山 青翔
所属学会	日本科学史学会、日本環境学会、社会思想史学会、日本中国語教育学会など					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		1. 「人間性の教育を教育の各環節に宿らせる」という教育理念を、中国語系のクラスにおいて実践している。 2. 近年、西洋科学史に関する史跡の現地調査で得た資料と新しい発想に基づいて、「西洋科学思想史」という科目の内容の選択と教授方法を見直している。			
2	作成した教科書、教材、参考書		なし			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		研究発表：“The Challenge of Choosing the Subject Matters of “the History of the Easter Asian Mathematics” as a General Course at College”, International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia, The Fourth Workshop in the First Term, March 2008.			
4	その他教育活動上特記すべき事項		1. 特別講演「逆境と人生」、於：名古屋工業大学就職支援講演会、平成 19 年 1 月 2. 特別講義「エコロジーとは何か」、於：三重県立飯南高校、平成 19 年 11 月			
研究活動						
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 （および巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	
著書						
環境事典	共著	平成 20 年 10 月	旬報社	日本科学者会議編 日本環境学会協力	「リチャーズ, エレン」、 1018 頁	
和算の事典	共著	平成 21 年 11 月	朝倉書店	佐藤健一、その他数名	312 頁～330 頁	
論文						
文明と文化の概念上の非一貫性	単著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 2 号		73 頁～83 頁	

エレン・H・リチャーズの環境思想の構造、およびエレンスト・ヘッケルとの比較	単著	平成 18 年夏	東海の科学史 第 7 号 日本科学史学会 東海支部	38 頁 ~ 45 頁
エレン・H・リチャーズの『正しい生活の技術』における環境思想	単著	平成 19 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 10 巻第 1・2	1 頁 ~ 22 頁
逆境と人生 ~ 社会環境上の平等権利のための闘争	単著	平成 19 年 3 月	キャリアオフィス年報 第 2 号 名古屋 工業大学工学教育総合センター	37 頁 ~ 49 頁
「算木」を超えた男 ~ もう一つの近代数学の誕生と関孝和	単著	平成 19 年夏	科学史研究 第 46 巻第 242 号 日本科学 史学会	97 頁 ~ 101 頁
エレン・H・リチャーズの「第 4 の “R”」 環境思想の医学的構造	単著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号	97 頁 ~ 111 頁
エレン・H・リチャーズの「第 4 の “R”」 環境思想における “Work” の地位、および 人生との関連性	単著	平成 20 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 1 号	17 頁 ~ 27 頁

主な学会活動

発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
エレン・H・リチャーズの「ユーセニックス」(優境学)の構成 ~ エレン・H・リチャーズのエコロジー思想の研究(3) ~	単独	平成 17 年 6 月	日本科学史学会 第 52 回年会総会
エレン・H・リチャーズの『The Art of Right Living』における環境思想	単独	平成 18 年 5 月	日本科学史学会 第 53 回年会総会
纏足文化とハイヒール文化の比較研究	単独	平成 18 年 6 月	日本比較文化学会 第 28 回全国大会
エレン・H・リチャーズの「正しい生活の技術」環境思想の構造	単独	平成 19 年 5 月	日本科学史学会 第 54 回年会総会
環境科学の成立	単独	平成 19 年 5 月	日本科学史学会東海支部 第 71 回例会

エレン・H・リチャーズによる社会環境倫理問題の提起	単独	平成 19 年 7 月	日本環境学会 第 33 回研究発表大会
エレン・H・リチャーズの『正しい生活の技術』における社会環境思想	単独	平成 19 年 10 月	社会思想史学会 第 32 回年会
「文明」と「文化」の概念上の非一緻性、および「社会」との関連	単独	平成 19 年 12 月	社会文化学会 第 10 回全国大会
An Influence of the Tang Period's Mingsuan-Ke Mathematical Education System of China on the Japanese Traditional Mathematics "Wasan"	単独	平成 20 年 3 月	International Program for a Study of the History of Mathematics in East Asia, The Third Workshop in the First Term
エレン・H・リチャーズの「第 4 の "R"」環境思想における「Work」と自然環境への適応、さらに人生との関連	単独	平成 20 年 6 月	総合人間学会 第 3 回全国大会
エレン・H・リチャーズの「第 4 の "R"」環境思想の栄養学的・医学的構造	単独	平成 20 年 8 月	日本環境学会 第 34 回研究発表大会
中国数学と朝鮮数学が日本へ与えた影響	単独	平成 22 年 2 月	日本科学史学会東海支部第 81 回例会（研究発表）
東アジアにおける周辺数学史の可能性	単独	平成 22 年 3 月	中国科学院自然科学史研究所（特別講演）
エレン・H・リチャーズの人物像および環境思想～環境科学の誕生過程～	単独	平成 22 年 3 月	中国・上海交通大学人文学部・東華大学人文学部（特別講演）
社会における主な活動			
なし			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	准教授（理学博士）	氏名	田中 伊知郎
所属学会	日本人類学会、日本霊長類学会、日本動物行動学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<p>単なる一方向のマスの伝達にならないように、双方向コミュニケーションを行い学生の理解の向上に努めた。たとえば、半期の講義において、必ず3回以上レポートを課し、すべてにコメントをつけて学生に返し、未理解の点を指摘し、再度勉強できるようにした。特に、理系の基礎である環境化学計算は、積み重ねが重要なので、毎回小テスト(自己採点用紙つき)を行い、講義内容の理解を教員・学生双方が確認できるようにした。自己採点用紙が残るので、間違った課題を学生が認知し、そこを重点的に学習できるようにして、学生の習熟度の向上を図った。また、理解が不足した課題(小テストの正解者が少ない課題)は、次の授業で復習して、学生が正しい知識を身につけ、着実に基礎から応用に成長できるようにした。また、小テストやレポートには、よくできた学生をきちんとほめるコメントもつけ、学生の講義内容の理解の充実および、講義に対する満足感の高揚を図った。</p> <p>また、授業評価アンケートを因子分析して、その結果を講義スタイルにフィードバックした。特に、授業にただいるだけの学生(出席が理解度や授業態度と関連しないことから判明)が存在することがわかり、板書をやめて、PC 用液晶プロジェクターやビデオを用いて、学生の興味を高め、さらに教室内を回って、学生を個別に指導して、授業への態度を向上させた。その結果、勝手におしゃべりする学生がいなくなり、他の学生の利益にもなり、教室全体の学生の理解を促進した。また巡回個別指導では、つまづいている学生に積極的に話しかけて、質問への敷居を低くし、双方向コミュニケーションを充実し、個々の学生の細かい質問にも答えることができ、理解の促進が図れた。特にコンピュータの実習では、学生が質問しやすい環境を整えるとともに、質問しない学生には積極的に教員から話しかけ、学習内容のチェックと指導を行い、理解の促進を図った。</p> <p>さらに、テストの採点基準を明示し、すべての答案に点数だけでなくコメントをつけて返却した。それができない定期テストは、不合格者の再チャレンジの場とし、繰り返し学習による習熟を図った。</p>			
2 作成した教科書、教材、参考書		なし			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし
4 その他教育活動上特記すべき事項	<p>少人数セミナーでは、コンピュータセンターのSSL通信を用いて、遠距離通学の学生が自宅から、パソコンを用いて資格取得などのe-learningができるようにした。近距離の学生も、土曜日・日曜日にも資格取得試験の勉強ができるようにした。また、携帯メールを使って個別に通信し、個別指導を行った。</p> <p>平成17年12月、自然科学教育の普及を図るための東京都港区生涯学習・親子生命科学教室「人間の体の中に潜む祖先の姿・運動パターン」(東京都港区立東町小学校にて)を行い、小学生の理科系離れを防ぐよう活動した。</p>

研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(および巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
論文					
Nulliparous pregnant females tried to suckle yearlings just before their first parturition but non-kin yearlings did not hold the nipples in their mouths among free-ranging Japanese macaques	単著	平成18年3月	四日市大学環境情報論集 第9巻第2号		27頁～31頁
Intestinal Endocellular Symbiotic Bacterium of the Macaque Louse Pedicinus obtusus: Distinct Endosymbiont Origins in Anthropoid Primate Lice and the Old World Monkey Louse	共著	平成21年6月 (印刷雑誌発行・ネット上での発表は4月)	Applied and environmental microbiology, vol. 75, No. 11 (この号の表紙写真「ニホンザルが新生児のシラミを取るところ」も提供)	Takema Fukatsu, Takahiro Hosokawa, Ryuichi Koga, Naruo Nikoh, Takuya Kato, Shin-ichi Hayama, Haruo Takefushi, and Ichirou Tanaka	3796頁～8799頁

主な学会活動

発表(報告)名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
ニホンザルにおける毛づくろい中のつまみ上げ行動の年齢変化	単独	平成17年7月	第21回日本霊長類学会大会

ニホンザルにおける毛づくろい相手の行動がつまみ上げ行動の発達に及ぼす効果	単独	平成 17 年 11 月	第 59 回日本人類学会大会
ニホンザルにおける毛づくろい相手の行動変化がつまみ上げ行動の発達に及ぼす効果	共同	平成 18 年 7 月	第 22 回日本霊長類学会大会
ニホンザルはシラミ卵の中身を食べて殻だけは捨てるようである	単独	平成 18 年 11 月	第 60 回日本人類学会大会
ニホンザルにおける毛づくろい相手の行動変化とかき分け行動の関連	単独	平成 19 年 7 月	第 23 回日本霊長類学会大会
ニホンザルにおけるシラミ卵取り行動の発達と毛づくろい相手の行動変化の関連	単独	平成 19 年 10 月	第 61 回日本人類学会大会
霊長類に寄生するシラミ類の細胞内共生細菌：その系統関係と進化的起源	共同	平成 20 年 7 月	第 24 回日本霊長類学会大会
サルジラミは毛包に卵を産むようである	共同	平成 21 年 10 月	第 63 回日本人類学会
社会における主な活動			
平成 14 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	日本人類学会評議員（日本人類学会）		
平成 18 年 4 月～平成 18 年 11 月	日本人類学会第 60 回大会実行委員		
平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月	日本人類学会 Anthropological Science 論文奨励賞選考委員会委員長		
平成 20 年 4 月～平成 20 年 11 月	日本人類学会第 62 回大会実行委員		

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科		職名	准教授（博士（工学））	氏名	本部 賢一
所属学会	土木学会、交通工学研究会					
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<p>規制のテキストを用いず、最新の事例等を多く紹介するために毎年プリントを作成・改定し、用いている。 单元ごとに課題を課し、学習習熟度を測るようにしている。 ISOの観点から、プリントの一部を電子ファイル化し、コンピュータ端末から閲覧できるようにしている。 実習形式の講義については、毎回出席をとり、学生の出席を促している。 大学全体で実施している授業評価アンケートとは別に、講義単位で個別に学生にアンケートをとり、学生の要望を講義に反映できるようにしている。</p>			
2	作成した教科書、教材、参考書		<p>教材の一部をパワーポイント資料として作成している。 現地取材したビデオ映像やTVニュース映像などの最新情報を教材として取り入れ、講義で視聴させている。 教材の一部を電子ファイル化し、コンピュータ端末から閲覧できるようにしている。</p>			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演		なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項		<p>朝明川自然度調査 平成 17 年 6 月 暁学園情報系授業サポート 平成 17 年 7 月、9 月 いなべ総合学園大学見学会・研究室訪問 平成 17 年 11 月、平成 18 年 11 月 四日市大学初級システムアドミニストレータ資格講座講師 平成 19 年 9 月、平成 20 年 9 月</p>			
研究活動						
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数	
なし						

主な学会活動			
発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等
なし			
社会における主な活動			
平成 17 年 8 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）		北勢地区福祉有償運送運営協議会	会長
平成 17 年 9 月		FM 四日市「まちづくりってなあに - 交通と環境」	出演
平成 18 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）		四日市市開発審議会	会長
平成 19 年 5 月		FM 四日市「面倒見のいい大学 - 環境情報学部新入生合宿について」	出演
平成 21 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）		中部地方整備局総合評価審査委員会三重県地域部会	委員
平成 21 年 12 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）		北勢交通圏タクシー協議会	委員

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部環境情報学科	職名	准教授（博士（学術））	氏名	牧田 直子
所属学会	日本薬学会、日本生物物理学会、日本蘚苔類学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>平成 21 年度の担当科目は「環境分析化学・実験」₁、「環境化学 a・b」₁、「環境情報学概論 1」₁、「専門セミナー」₁、「卒業研究セミナー」の 6 科目、平成 22 年度は「環境分析化学・実験」₁、「環境のための基礎化学」₁、「環境化学 a・b」₁、「環境情報学概論 1」₁、「卒業研究セミナー」の 6 科目である。</p> <p>「環境分析化学・実験」は実験実習であり、実験内容を理解した上で実験操作を行えるよう、予習を課している。実習の前半では実験の原理を解説し、実験方法がわかりやすいように、実演しながら講義を行っている。実習後には実験レポートの提出を課し、実験データの客観的な考察ができるように添削、指導している。実験の内容は毎回異なるが、実験原理を理解し、操作を習得しやすいように、1 度しか行わないという項目がないように工夫している。</p> <p>担当する講義「環境のための基礎化学」と「環境化学 a・b」では、学生が受け身の姿勢で講義を聴くのみにならないよう、講義の途中や最後に短い演習時間を設け、学生自身で考えられるように工夫している。また、テキストの内容に沿った課題を課して予習と復習の時間を取れるようにしている。講義では説明を何度か繰り返し、できるだけ板書して、化学の基本事項の書き方や考え方の順序が身につくように工夫している。特に「環境のための基礎化学」は留学生の履修生が多いので、できるだけ簡単な言葉で、説明するようにしている。</p> <p>担当するセミナーでは、実験とデータのコンピュータ解析、文献調査などを学生自身で行えるように指導した上で、レポートや卒業研究計画、最後は卒業論文としてまとめられるよう、学生の興味や自主性に任せて課題を設定し、柔軟に対応している。</p> <p>「環境情報学概論 1」では、担任として学生のレポートを添削するだけでなく、ノートを点検して講義後の内容を補足するなど、大学の講義に学生が慣れるように配慮している。また、留学生と日本人学生との交流の場として、講義後のグループディスカッションや、情報交換の時間も設けるようにしている。</p>			
2	作成した教科書、教材、参考書	「環境分析化学・実験」については自作のプリントを作成し、配布している。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			

4 その他教育活動上特記すべき事項	平成 17 年から平成 19 年までに 3 回、三重県立飯南高校にて、平成 17 年から平成 20 年までに 4 回、三重県立久居農林高校にて「生体内環境」という内容で出張講義を行った。
-------------------	---

研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
水中における DNA フラレーン会合体の形成	共著	平成 17 年	分析化学 vol.54/6	野島高彦、山下健一、八田泰三、柘植乙彦、岩瀧敏男、牧田直子、吉川研一、藤井聡、竹中繁織	449 頁～454 頁
Conformational Change of Giant DNA with Added Salt As Revealed by Single Molecular Observation	共著	平成 18 年 9 月	Macromolecules, vol. 39/18	Naoko Makita, Magnus Ullner and Kenichi Yoshikawa	6200 頁～6206 頁
A Toroidally Folded Monomolecular DNA Chain-From the perspective of colloidal physics-	共著	平成 20 年	The Journal of Chemical Physics, vol. 129/6, 065103	Takafumi Iwaki, Naoko Makita and Kenichi Yoshikawa	065103 (全頁)
スperlミジンによる DNA 凝縮転移に対する塩の影響	単著	平成 20 年 1 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号		1 頁～10 頁
STPR による長鎖 DNA 分子の折り畳み転移	単著	平成 20 年 1 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号		11 頁～18 頁
Controlling the Higher Order Structure of DNA-Protamine Complex	共著	平成 21 年 11 月	Proceeding of 2009 International Symposium on Micro-Nanomechatronics and Human Science (MHS2009)	Yuko Yoshikawa, Naoko Makita, Mari Suzuki, Eri Shindo, Chika Watanabe, Tamotsu Kanai, Tadayuki Imanaka, Toshio Kanbe, Kenichi Yoshikawa	305 頁～309 頁

主な学会活動

発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等
学会発表			
長鎖 DNA 分子の高次構造制御	単独	平成 19 年 8 月	特定領域「バイオ操作」公開シンポジウム

社会における主な活動

平成 20 年 4 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	平成 20 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業：「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」連携研究機関協力者（三重大学）
平成 20 年 10 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	三重県環境審議会委員（三重県）

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部社会環境デザイン学科	職名	特任教授(学士)	氏名	植田 栄二
所属学会	日本経営学会、実践経営学会、日本中小企業学会、日本港湾経済学会、日本経営情報学会、経営学史学会、日本環境共生学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>学生の視点に立った授業に努める。</p> <p>講義内容がより理解できるように、前もってプリントを用意して配布し、それを説明する導入教育を重視する。また、講義内容に関するビデオを使用し、実践面からの理解を深める。</p>			
2	作成した教科書、教材、参考書	<p>『現代経営学』（同文館）</p> <p>本書は、経営学を学ぶ初学者と実務家の人々を対象にした「経営学の教科書」として刊行した。</p> <p>『現代経営論』（創成社）</p> <p>本書は、著者多年の研究書であり、現代社会における「企業経営のあるべき姿」を究明したものである。</p>			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	<p>出席重視と小テスト、レポート等の総合評価。</p> <p>日々真面目に努力する人間の養成は、教育の基本であり、人生の基本と認識するものである。</p>			

研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
現代経営学 改訂版3刷	共著	平成21年5月	同文館	寺石雅英	序文、55頁～85頁、 231頁～241頁
現代経営学 三訂版	共著	平成22年4月	同文館	寺石雅英	序文、55頁～85頁、 231頁～241頁
主な学会活動					
発表(報告)名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
なし					
主な社会活動					
平成17年8月～平成21年5月(現在に至る)		四日市市人事給与制度研究会委員(学識経験者)			
平成18年1月～平成21年5月(現在に至る)		四日市市特別職報酬等審議会委員(学識経験者)会長			
平成21年12月～平成22年3月		四日市市特別職報酬等審議会委員(学識経験者)会長			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部社会環境デザイン学科		職名	特任教授（工学博士）		氏名	波多野 憲男	
所属学会	日本建築学会、日本都市計画学会							
教育活動								
教育実践上の主な業績			概 要					
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		講義の理解度を把握するために、毎回レポート提出を課している。					
2	作成した教科書、教材、参考書		「都市計画論 a」の授業では、資料集「都市形成史」を作成して配布している。					
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし					
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし					
研究活動								
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 （および巻・号数）等の名称		编者・著者名 （共著の場合のみ記入）		該当頁数
著書								
幻の都市計画		共著	平成 18 年 3 月	樹林舎		日本都市計画学会中部支部		98 頁～103 頁
論文								
ラーバンデザインに関する法と制度 - 農村都市計画からみた 1968 年都市計画法から 2000 年都市計画法 -		単著	平成 18 年 9 月	日本建築学会大会農村計画部門研究協議 会報告集				33 頁～36 頁

四日市公害と都市計画	単著	平成 19 年 6 月	日本環境会議四日市環境再生まちづくり 検討委員会地域計画・行財政部会報告集	25 頁 ~ 45 頁
主な学会活動				
発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等	
なし				
社会における主な活動				
平成 10 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月		日本建築学会東海支部都市計画委員会		
平成 10 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月		三重県開発審査会		
平成 12 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月		四日市市開発審査会会長		
平成 18 年 4 月 ~ 平成 21 年 5 月		三重県都市計画マスタープラン策定委員会		

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	教授(修士(英語教育学))	氏名	エリック ブレイ Eric Bray
所属学会	なし				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	2年前からムービージャーナルを授業に取り入れている。映画鑑賞後に書かせるムービージャーナルは、その後ディスカッションをする時の手助けとなる。ディスカッションではアメリカの文化、英語の文法や映画の内容について話し合う。			
2	作成した教科書、教材、参考書	“Moving On with English: Discussion, Roleplay and Projects”(南雲堂)2007年2月			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	なし			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(および巻・号数)等の名称	编者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Japanese Online Distance Learners' Opinions and Learning Preferences: A Mixed Methods Study	単著	平成19年8月	University of Nebraska Press		265頁
Japanese Online Distance Education: Learners' Perspectives	単著	平成20年8月	VDM Verlag 出版		154頁

Getting Into English	共著	平成 22 年 2 月	Nan'un-do Publishing Co	Joe Cronin, Eric Bray	69 頁
論文					
Cultural influences on online learning in Japan	単著	平成 17 年 8 月	Conference Proceedings of the ICDE International Conference on Open Learning and Distance Education		1 頁 ~ 23 頁
Learning Styles of Distance Learners in Japan: Cultural considerations	共著	平成 18 年 6 月	Conference Proceedings of the European Learning Styles Information Network	Kumiko Aoki, Eric Bray	1 頁 ~ 18 頁
The Distance Learner: Variables of Interest	単著	平成 18 年 10 月	Yokkaichi University Journal of Environmental and Information Sciences, vol. 10, No. 1-2		35 頁 ~ 48 頁
Learning Satisfaction of Japanese Online Distance Learners: Survey Results	共著	平成 19 年 7 月	Conference Proceedings of the International Conference of Technology in Higher Education and Training	Eric Bray, Kumiko Aoki, Larry Dlugosh	1 頁 ~ 6 頁
Predictors of Learning Satisfaction in Japanese Online Distance Learners	共著	平成 20 年 9 月	International Review of Research in Online Distance Learning	Eric Bray, Kumiko Aoki, Larry Dlugosh	1 頁 ~ 24 頁
Online Intercultural Exchanges Using Videomail (Vmail)	単著	平成 21 年 9 月	Yokkaichi University Journal of Environmental and Information Sciences. 13(1)		25 頁 ~ 49 頁
Using Videomail (Vmail) Effectively in Online Intercultural Exchanges	単著	平成 22 年 2 月	CALL-EJ Online 11 (2)		Web 上
Doing Roleplay Successfully in Japanese Language Classrooms	単著	平成 22 年 3 月	JALT Language Teacher 34(02)		13 頁 ~ 18 頁
主な学会活動					
発表 (報告) 名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
Using Roleplay successfully in Japanese classrooms	単独	平成 20 年 11 月	JALT – Japanese Association of Language Teachers		

Using Roleplay Successfully with EFL Learners	単独	平成 21 年 2 月	Camtesol – Cambodian Teachers of English to Speakers of other Languages
Online Collaborative Intercultural Exchanges Using Videomail (Vmail)	単独	平成 21 年 12 月	GlobalCALL Conference 2009, Chiang Mai, Thailand
社会における主な活動			
平成 3 年 4 月 ~ 平成 21 年 5 月		JALT - Japanese Association of Language Teachers	

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	特任教授（文学修士）	氏名	北島 義信
所属学会	黒人研究会、地域文化学会、多民族研究学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	英語コミュニケーション（基礎・ ）では、「前回授業」箇所の復習小テスト（英文の書き取り）を授業開始時に行い、次週に誤りを訂正して返却する。英文が4～5問中、1問も正しく書けていない場合は零点となる。また、前回の授業で学んだ英語会話文の暗記も並行して実施し、この暗記を怠った者は零点となる。「書き取り」・「暗記」の両方ができた場合のみ、2点～4点の平常点が得られる。これについては厳格に実施されるため、受講生は良く努力し、成績向上に役立っている。			
2	作成した教科書、教材、参考書	英語コミュニケーションの授業では、最近の英語の歌を聴かせて、歌詞の空欄部分を埋めさせるプリントを補助教材として配布している。あわせて、歌詞の意味を考えさせるように指導している。英語講読・表現では、本学部英語教員で共同で作成したテキスト Reading Better, Thinking Better（平成15年改訂）を授業で使用している。授業では、アジアの民話部分を利用することによって、学生に対して英語力向上のみならず、人生を考えるように指導している。英語講読・表現の再履修クラスでは、私の編集した『ネパール短編集』を英語テキストとして使用している。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年度高田短期大学FD・SD研修会講演：「本来の本学教育とは何か」 平成22年2月26日、高田短期大学の教職員全員に対して上記のテーマの講演を行い、その後、討論を行った。 講演の項目：1.最近の大学をめぐる情勢（「大学評価」浮上の背景、高校生の学力・意欲の低下の現実、高等教育の質保証の必要性、FD義務化の問題をどう捉えるのか）、2.情勢に基づく大学・短大のあり方、3.四日市大学におけるキャリア教育の取組みについて、4.結論			
4	その他教育活動上特記すべき事項	なし			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 （および巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
浄土真宗と社会政治	共著	平成18年2月	リーラー「遊」 Vol.4 文理閣	北島義信編集（北島義信、他9名）	24頁～39頁

下からのグローバリゼーション	共著	平成 18 年 2 月	新評論	片岡幸彦編集(片岡幸彦、北島義信、他 11 名)	228 頁～251 頁
浄土真宗と共生	共著	平成 19 年 10 月	リーラー「遊」 Vol.5 文理閣	北島義信編集(北島義信、他 8 名)	36 頁～52 頁
浄土真宗の五百年	共著	平成 21 年 6 月	リーラー「遊」 Vol.6 文理閣	北島義信編集(北島義信、他 17 名)	75 頁～92 頁
グローバル世紀への挑戦 - 文明再生の智慧	共著	平成 22 年 4 月	図書出版 文理閣	片岡幸彦編集(幸泉哲紀、安藤次男、他 18 名)	137 頁～149 頁 (親鸞の思想が教えるもの)
翻訳書					
ブラック・アテナ	共訳	平成 19 年 5 月	新評論	片岡幸彦監訳(片岡幸彦、北島義信、他 5 名)	86 頁～190 頁(第 1 章、第 2 章を翻訳)
論文					
Black Studies in Japan, Focusing on Globalization and the Japanization of Black Studies	単著	平成 19 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 1 号		27 頁～33 頁
文明と近代化(アリー・シャリーアティ一著) 翻訳・解説	単著	平成 19 年 12 月	地域文化研究 第 10 号 地域文化学会		43 頁～66 頁
黒人研究と平和	単著	平成 20 年 3 月	黒人研究 77 黒人研究会		1 頁～5 頁
文化とイデオロギー(アリー・シャリーアティ一著) 翻訳・解説	共著	平成 20 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 12 巻第 1 号	北島義信、渡邊丈文	68 頁～70 頁
裸の歌(マンドラ・ランガ著) 翻訳・解説	単著	平成 20 年 10 月	季論 21 第 2 号 本の泉社		212 頁～238 頁
アリー・シャリーアティ一とステーブ・ピコ その思想的共通性	単著	平成 20 年 12 月	地域文化研究 第 11 号 地域文化学会		41 頁～55 頁
文化としての「虫送り」行事	単著	平成 21 年 3 月	トリオ Vol.10 三重大学大学院人文社会科学部研究科		16 頁～17 頁
バラク・オバマの勝利演説が語りかけるもの	単著	平成 21 年 3 月	黒人研究 78 黒人研究会		1 頁～2 頁
アフリカ文学の現在	単著	平成 21 年 7 月	民主文学 7 月号		128 頁～134 頁
黒人文学と日本の文化 - アフリカ黒人文化を中心に	単著	平成 21 年 12 月	地域文化研究 第 12 号 地域文化学会		59 頁～74 頁

その他				
小説の全体性とベン・オクリのマジカル・リアリズム	単著	平成 21 年 9 月	第 81 回大会 Proceedings(日本英文学会)	179 頁 ~ 181 頁
黒人研究と沖縄	単著	平成 22 年 3 月	黒人研究 79 黒人研究会	1 頁 ~ 2 頁
主な学会活動				
発表(報告)名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等	
学会発表				
Black Studies in Japan	単独	平成 19 年 1 月	国立中央研究院歐美研究所(台湾台北市)、国立高雄師範大学(高雄市)での学術講演(英語)	
アンリ・ロペス(Henri Lopes)の短編集 Tribaliqes(1971)におけるリアリズム	単独	平成 19 年 9 月	黒人研究会 9 月例会(大阪工業大学)	
ベン・オクリとマジカル・リアリズム	単独	平成 19 年 11 月	第 13 回英語圏ポストコロナル研究会講演(中京大学)	
日本における宗教と共同体 土着宗教と浄土真宗を中心に	単独	平成 20 年 6 月	地域文化学会研究大会(中央大学理工学部)	
社会における主な活動				
平成 17 年 7 月 ~ 平成 22 年 5 月(現在に至る)	黒人研究会代表			
平成 20 年 4 月 13 日	社団法人四日市労働基準協会特別講演講師:「安全と共生」(四日市市民文化会館第二ホール)			
平成 20 年 6 月 ~ 平成 22 年 5 月(現在に至る)	地域文化学会副理事長			
平成 20 年 7 月 21 日	第 20 回愛知サマーセミナー特別講演「アフリカ文学の魅力」(愛知淑徳高校)			
平成 20 年 11 月 11 日	ユークーパートナー会議講演「混迷する現代社会をいかに生きぬくか」(ユークー会館)			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	教授(修士(農学研究科))	氏名	黒島 哲夫
所属学会					
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	電子出版セミナーと講義(出版文化論、出版メディア論1と2を通して、人類のメディア活動の発祥から現在のメディア化社会のなかでのメディア・リテラシーまでを、座学と実習的な教育プログラムを通して教授している。特に、セミナーでは imargin というメディアを創刊して、継続的に発行しており、この発行作業が教育プログラムの大きな軸となっている。			
2	作成した教科書、教材、参考書	講義、セミナーとも、独自に準備した資料やプログラムを使用している。講義面では、授業メモを作成し、大学のホームページ(教育支援システム:Moodle)に掲載し、学生の復習や自己啓発に結びつけている。セミナーにおいては、99年に開発したグラフィック関連ソフト学習用プログラム「CD Shopシリーズ」をさらに発展させたプログラムを、また、プログラム化したメディア点検シリーズとしての「メディア・ウォッチング・シリーズ」を運用している。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	教育方法と実践に関する表現としては、主に二通りの方法論をとって、時節的な成果を発表している。一つには、学部論集への研究成果の投稿であり、もう一つは、セミナーのブランド・メディア imargin の発行である。2005年以降、imargin はタブロイド版、DVDバージョンを含めて4タイトル(タブロイド版1タイトル、DVD3タイトル)を発行した。			
4	その他教育活動上特記すべき事項	IT時代のメディア活動をストレスなく出来るようになるためのリテラシー開発がセミナー活動の最大の目標であることから、現状のネット的な各種ツールを活用することを意識的に進めてきた。セミナー活動へのメーリング・リストの導入や、課題の作成点検作業をオンライン的に進めるための共用サーバー(旧.mac)の運用などを行ってきた。特に、旧.macを使用した長編アニメ・プロジェクトでは、時間空間に縛られない共同制作を成し遂げ、ネット時代のセミナー活動の新しい形態を確立してきた。さらに、初年次導入講座として位置付けされる講座では、2006年度から、体験学習を中心に据えたプログラムを主導的に構成した。また、2009年度からは、同じく1年生が履修するメディア・リテラシー講座を主導的に構成している。			

研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
論文					
四日市大学におけるメディア・リテラシ ー開発：その3 ～WEB2.0時代のメディア・クリエイター 育成プログラム/事例研究：2年間をか けて取り組んでいるアニメ・プロジェク トの経過から～	単著	平成 20 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻第 2 号		137 頁～160 頁
IMARGIN (タブロイド版)	共著	平成 17 年 4 月	四日市大学環境情報学部 電子出版セミ ナー		全 8 頁
IMARGIN DVD 2 電脳学芸会 ～電子出版セミナー第6期 生の遊～	共同制作 作品	平成 18 年 4 月	四日市大学環境情報学部 電子出版セミ ナー		
IMARGIN DVD 3 「モッソラー ～妄想人宇宙(ソラ)の大学デビュー～」	共同制作 作品	平成 20 年 1 月	四日市大学環境情報学部 電子出版セミ ナー		
IMARGIN DVD 4 電子出版セミナー第 9 期生,第 10 期生共同制作作品	共同制作 作品	平成 21 年 1 月	四日市大学環境情報学部 電子出版セミ ナー		
主な学会活動					
発表(報告)名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
なし					
社会における主な活動					
なし					

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	教授（博士（工学））	氏名	前川 督雄
所属学会	電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本音響学会、日本バーチャルリアリティ学会、ヒューマンインタフェース学会、民族芸術学会、日本進化学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>講義を担当するマルチメディア論、視覚伝達デザイン、環境デザイン論、メディア産業論、人間と文化において、AV コンテンツを多用したアトラクティブなPCプレゼンテーション講義を工夫した。</p> <p>環境情報学概論において、メディアコミュニケーションの基礎となる身体表現・生身のコミュニケーションを学ぶために、インドネシア共和国バリ州の芸能「ケチャ」の実習を導入・工夫した。また、人間と文化において、民族音楽に体験的に親しむために、実習的要素を導入した。</p>			
2	作成した教科書、教材、参考書	マルチメディア論、視覚伝達デザイン、環境デザイン論、メディア産業論、人間と文化の各教材作成・改訂。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	メディアを用いた教育は、学生を長時間・長期間にわたって人工的な視聴覚情報に曝露させることを導く。人工的な視聴覚情報は生理的・心理的な安全性が保証されておらず、教育への活用を目的のひとつに「メディア情報が脳に及ぼす影響の研究」を進めている。			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	编者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
メディアコミュニケーションと視覚情報構造	単著	平成 17 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻第 1 号		81 頁～93 頁
The role of biological system other than auditory air-conduction in the emergence of the hypersonic effect	共著	平成 18 年 2 月	Brain Research, vol.1073-1074	大橋力、河合徳枝、仁科工ミ、本田学、八木玲子、中村聡、森本雅子、前川督雄、米倉義晴、柴崎浩	339 頁～347 頁

An Effective Hierarchical Model for the Biomolecular Covalent Bond: An Approach Integrating Artificial Chemistry and an Actual Terrestrial Life System	共著	平成 21 年 1 月	Artificial Life, Winter 2009, Vol. 15, No. 1	大橋力、上野修、前川督雄、河合徳枝、仁科エミ、本田学	29 頁 ~ 58 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
進化加速系としてのプログラムされた自己解体	共同	平成 17 年 8 月	第 7 回日本進化学会シンポジウム（日本進化学会）		
ハイパーソニック・エフェクト発現メカニズムの生理学的検討	共同	平成 18 年 3 月	日本音響学会 2006 年春季研究発表会（日本音響学会）		
Biological mechanism of perception of inaudible high-frequency component included in musical sounds	共同	平成 18 年 9 月	The third International Symposium on Traditional Polyphony（於：グルジア国トビリシ）		
プログラムされた自己解体モデル検討のためのパルス熱ショック法の構築	共同	平成 19 年 12 月	第 30 回日本分子生物学会年会・第 80 回日本生化学会大会 合同大会（日本分子生物学会・日本生化学会）		
ハイパーソニック・サウンドの音響構造について（その 1） - グルジア伝統ポリフォニー -	共同	平成 21 年 3 月	日本音響学会 2009 年春季研究発表会（日本音響学会）		
ハイパーソニック・サウンドの音響構造について（その 2） - 日本伝統楽器音の超知覚情報 -	共同	平成 21 年 3 月	日本音響学会 2009 年春季研究発表会（日本音響学会）		
画像効果評価のための超高精細映像撮影・編集・表示技術の研究	共同	平成 21 年 5 月	戦略的情報通信研究開発推進制度 SCOPE 第 5 回成果発表会		

社会における主な活動	
平成 14 年 6 月～平成 20 年 5 月	学会誌編集企画幹事（映像情報メディア学会）
平成 15 年 1 月～平成 22 年 5 月（現在に至る）	ウェアラブル/ユビキタスVR研究委員会委員（日本バーチャルリアリティ学会）
平成 17 年、18 年、19 年、20 年	国際会議 International Conference on Artificial Reality and Telexistence (ICAT2005～ICAT2008)プログラム委員
平成 19 年～平成 21 年	エンタテインメントコンピューティングシンポジウム（EC2007～EC2009）プログラム委員

2 専任教員の教育・研究業績（芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員）

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科		職名	教授（博士（工学））		氏名	前川 督雄	
展覧会・演奏・競技会等の名称		場 所	開催日時		発表・展示等の内容等			
HDTV の 4 倍の精細度をもつ 4K システムによる超高密度記録「Echoscape WIANTA GALAXY」			平成 17 年 3 月 ～平成 19 年 3 月		ハイビジョンの 4 倍の精細度をもつ新開発の 4K システムを用いた、現代バリ美術の大家マデ・ウィアンタによる超高精細絵画ならびにオブジェの超高密度記録に参加（SCOPE 戦略的情報通信研究開発推進制度「画像効果評価のための超高精細映像撮影・編集・表示技術の研究（061303020）」）。			
JAPAN 国際コンテンツフェスティバル(CoFesta) 最新デジタル映像音響技術が開く新世界		表参道ヒルズ B3F SPACE [0:]	平成 20 年 10 月 18 日、 19 日		技術スタッフとして下記イベント制作に参加。 (http://www.dcaj.org/cofesta2008/shinsekai.html) 1) ハイパーメディア・コンテンツの衝撃 Part ～知覚を超えるコンテンツがよびさます美と感動そして健康と快適の脳機能～ ハイパーソニック・ブルーレイ・ディスク『AKIRA』 2) ハイパーメディア・コンテンツの衝撃 Part ～知覚を超えるコンテンツがよびさます美と感動そして健康と快適の脳機能～ ハイパーソニック・4K コンテンツ『エコ・スケープ・ウィアンタ・ギャラクシー』			
ハイパーソニック Blu-ray Disc 『AKIRA』 (バンダイビジュアル株式会社)			平成 21 年 2 月発売		大友克洋原作・監督のアニメ『AKIRA』の BD 版制作にあたり、ハイパーソニック・シグナルプロセシングに参加。96kHz までの超高周波成分をおさめたドルビー TrueHD 5.1ch サラウンド (192kHz 24bit サンプリング) を実現した。この作品は、ハイパーソニック・エフェクトを導くハイパーソニック・サウンドが収録されていることを脳機能計測実験に基づいて認定する「HYPERSONIC BRAIN」ロゴマークを世界で初めて冠したコンテンツである。			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	特任教授（理学博士）	氏名	松永 勝彦
所属学会	日本化学会、日本分析学会、日本海水学会、日本海洋学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	視覚から講義内容を把握させるため、ビデオなどで最初に講義をする。 理系が苦手な学生もいるので、数学的な話では、できるだけやさしい表現に配慮している。			
2	作成した教科書、教材、参考書	なし			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	平成 10 年～平成 21 年 5 月：JICA 講義			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
森が消えれば海も死ぬ第 2 版	単著	平成 22 年 2 月	講談社		1 頁～188 頁
論文					
森・川・海を結ぶ(7) - 牡蠣の話	単著	平成 17 年 7 月	「季刊・TKS 第 81 号」		9 頁～10 頁
森・川・海を結ぶ(8) - 一石三鳥の森に	単著	平成 18 年 10 月	「季刊・TKS 第 86 号」		9 頁～10 頁
森・川・海を結ぶ(9) - アユの話	単著	平成 19 年 10 月	「季刊・TKS 第 90 号」		9 頁～10 頁

森・川・海を結ぶ(10) - 陸から海へ	単著	平成 20 年 10 月	「季刊・TKS 第 94 号」		9 頁 ~ 10 頁
$\Delta^{13}\text{C}$ and $\delta^{15}\text{N}$ indicators of fish and shrimp community diet and trophic structure in a mangrove ecosystem in Thailand	共著	平成 20 年 12 月	Wetlands Ecology and Management 第 16 巻第 6 号	W. Thimdee, G. Deein, N. Nakayama, Y. Suzuki and K. Matsunaga	463 頁 ~ 470 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
なし			なし		
社会における主な活動					
平成 10 年 4 月 ~ 平成 21 年 5 月		日本海水学会理事			
平成 16 年 4 月 ~ 平成 21 年 5 月		日本分析化学会北海道支部参与			
平成 18 年 9 月		日本分析化学会功労賞受賞			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	特任教授	氏名	山形 多聞
所属学会	日本バーチャルリアリティ学会、社団法人日本照明家協会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	映像を重点的に取り入れ、授業終了ごとにレポートを提出させ、メディアリテラシーを高め、クリティカルな思考、創造的な思考を含み、多角的なアプローチが出来るようにしている。実習を重視し、照明プラン、映像制作等は課外活動を含めテーマごとに DVD に収めるように指導している。			
2	作成した教科書、教材、参考書	名作古典映画、ドキュメンタリー、現代映画、アニメーション、CM 映像等の資料芝居、古典芸能、民俗芸能、オペラ、ミュージカル、謡曲等の映像資料。シミュレーションソフトを使っでの照明プラン。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成 18 年～平成 21 年 中野 ZERO 芸能山城組春祭りの照明プラン、平成 18 年～平成 21 年 四日市市諏訪公園光と音のファンタジー照明プラン、四日市市連続講座「四日市市の今を語る」平成 19 年 9 月			
4	その他教育活動上特記すべき事項	映像、照明ゼミの卒業研究を論文と DVD 制作とした。			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
なし					
主な学会活動					
発表(報告)名等	単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
画像効果評価のため超高精細映像撮影・編集・表示技術の研究	共同	平成 21 年	戦略的情報通信研究開発推進制度		
社会における主な活動					
平成 18 年～平成 22 年 5 月(現在に至る)		四日市市文化振興基金活用事業審査会 委員長			

2 専任教員の教育・研究業績（芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員）

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科		職名	特任教授		氏名	山形 多聞	
展覧会・演奏・競技会等の名称		場 所	開催日時		発表・展示等の内容等			
「芸能山城組」春祭り		中野 ZERO ホール	平成 22 年 5 月 23 日		「芸能山城組」による インドネシア バリ島のジェゴクの演奏と、郡芸「鳴る神」の照明プラン			
楠町「ほたるを見る会」		楠町楠城址前	平成 22 年 6 月 5 日		樹齢数百年の楠の前でのコンサートの照明			
「芸能山城組」ケチャ祭り		三井 55 広場	平成 22 年 7 月 30 日～8 月 2 日		35 年目の「芸能山城組」による、様々な公演に対する演出照明プラン			
ごった煮祭り		四日市市民広場	平成 22 年 11 月 7～8 日		JC と四日市大学生のコラボレーションによるイベントの照明設計施工			
諏訪公園「光のおくりもの」		四日市 諏訪公園	平成 22 年 11 月 28 日		交流館 噴水施設などを学生が主体と鳴って行う「音と光りでのパフォーマンス」の設計と指導			

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科			職名	教授（教育学修士）	氏名	山本 伸
所属学会	日本アメリカ文学会、日本英文学会、ポップカルチャー学会、黒人研究会、グローバルネットワーク21、欧州黒人研究学会（CAAR）						
教育活動							
教育実践上の主な業績				概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ゼミおよび講義における AV 機器及びネット情報の活用 語学授業における「概念地図」の活用				メディアコミュニケーションという学科専攻の性質上、やはりそれをいかに駆使するかは必然の課題となる。ゼミにおいては、あくまで人間の視点からメディアを活用し、決して単なる情報収集に終わらせないよう高次元な学問体系の一部として組み込むことで、ゼミ全体の効果を高めるように心がけている。 語学能力を語彙や文法規則の記憶に一方向的に頼らせないための能力開発の一助として「概念地図」を活用している。一言でいえば、これは文脈力をつけることであり、話や文章の流れを読み取る力をつけることで次の展開の予測力をはぐくむものであり、これまでの経験上、語彙力は対象文章の4割程度しか必要なくなる。全体の意味を4割程度の単語力で十分に理解できるとする本説は、当然ながら英語の苦手な学生諸君には好評を博している。			
2 作成した教科書、教材、参考書				なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				第4回ハワイ人文学国際会議(Hawaii International Conference on Arts and Humanities) “Continental Crossings, Continental Divides: Teaching American Studies in England and Japan” with Chris Mulvey (University of Winchester, UK) (2007年1月) 育達商業学院特別講演 “Like It or Not”- English as a Tool for Contextualization and Subjectification – (苗栗、台湾 2007年6月) 上記の国際学会、及び招聘公演で、日本の大学における英語講義および演習授業に関する発表を行った。ハワイの発表では、とくにアメリカ研究講義あるいは授業の問題点と課題、解決方法論を、台湾の講演では、理工系等英語を直接的には専門としない学生にいかに英語を効果的に教えるか、そもそも何のための英語教育かについて話した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項				なし			
研究活動							
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
『浄土真宗と社会・政治』	共著	平成18年2月	文理閣	北島義信、山本伸、他	121頁～135頁		

『下からのグローバリゼーション』	共著	平成 18 年 2 月	新評論	片岡幸彦、山本伸、他	211 頁～226 頁
『20 世紀アメリカ文学を学ぶ人のために』	共著	平成 18 年 9 月	世界思想社	山下昇、渡辺克昭、山本伸、他	248 頁～259 頁
『浄土真宗と共生』	共著	平成 19 年 10 月	文理閣	北島義信、山本伸、他	73 頁～84 頁
『木と土と水と』	共著	平成 19 年 12 月	金星堂	松本昇、横田由理、稲木妙子、山本伸、他	3 頁～15 頁
『英語文学とフォークロア 歌、祭り、語り』	共著	平成 20 年 12 月	南雲堂フェニックス	風呂本惇子、松本昇、山本伸、他	244 頁～258 頁
『バードイメージ 鳥のアメリカ文学』	共編著	平成 22 年 4 月	金星堂	松本昇、西垣内磨留美、山本伸	343 頁～360 頁
『グローバル世紀への挑戦 人類再生の智慧』	共著	平成 22 年 4 月	新評論	片岡幸彦、幸泉哲紀、他	13 頁～28 頁
論文					
Swaying in the Heat of the Island—From Ambivalence to Dynamism in Caribbean Literature—	単著	平成 18 年 3 月	四日市大学環境情報論集 第 9 巻 2 号		85 頁～90 頁
なぜ、沖縄の吉野家にはカウンター席がないのか？ 沖縄型コミュニケーションの真髄とグローカリズム	単著	平成 19 年 3 月	ポップカルチャー学会編『APOCS』 No.4		61 頁～72 頁
RE-COMMUNICATING WITH THE DEAD—A Japanese Perspective on Edwidge Danticat's <i>Krik? Krak</i>	単著	平成 19 年 9 月	四日市大学環境情報論集 第 11 巻 1 号		21 頁～26 頁
Swaying in time and space: the Chinese Diaspora in the Caribbean and its literary perspectives	単著	平成 20 年 10 月	<i>Asian Ethnicity</i> Volume 2, Issue 3, Routledge		171 頁～178 頁
黒人研究と平和 / ボーダーを越境するダイアローグ : Swaying in the Heat of the Islands カリブ文学と『平和』	単独	平成 21 年 3 月	黒人研究会編『黒人研究』		20 頁～23 頁

ポスト・ソウルとスパイク・リー 『シーズ・ガッタ・ハヴ・イット』(1986)にみる「新たな黒人の美学」	単著	平成 22 年 3 月	黒人研究会編『黒人研究 No.79』		28 頁 ~ 30 頁
翻訳					
マーチン・バナル著『黒いアテナー捏造されたギリシャ文明』	共同	平成 19 年 4 月	新評論		330 頁 ~ 401 頁
主な学会活動					
発表(報告)名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
学会発表					
「日本における黒人(含カリブ)文学・文化研究の現状」(英語)	単独	平成 17 年 7 月	日米交流基金招聘(インディアナ州立大学)		
「東アジア共同体実現に向けて」(英語)	単独	平成 17 年 9 月	GN21 国際会議(ハノイ国家大学)		
(41)「日米交流基金招聘ブラックスタディーズ研究者交流の報告」	単独	平成 17 年 12 月	黒人研究会(大学コンソーシアム京都)		
「ハリケーン『カトリーナ』特別シンポジウム:日米政府の対応から見えてくるもの 人種と階級、国家と国民、災禍とビジネス」	単独	平成 18 年 2 月	黒人研究会(大学コンソーシアム京都)		
講演「現代英語圏カリブ文学:その意味と可能性 カリブ的「揺れ」の美学とはなにか」	単独	平成 18 年 4 月	日本アメリカ文学会東北支部(東北大学)		
「なぜ、沖縄の吉野家にはカウンター席がないのか？」	単独	平成 18 年 9 月	ポップカルチャー学会(昭和女子大学)		

“RE-COMMUNICATING WITH THE DEAD—A Japanese Perspective on Edwidge Danticat’s <i>Krik? Krak!</i> ”	単独	平成 18 年 11 月	第 8 回 ICCL 国際カリブ文学会 (ポルトープランス、ハイチ)
“Continental Crossings, Continental Divides: Teaching American Studies in England and Japan”	共同	平成 19 年 1 月	第 4 回ハワイ人文学国際会議(ホノルル、ハワイ) with Chris Mulvey (University of Winchester, UK)
講演“The East Writes Back –Afro-Asiatic Elements in Caribbean Literature”	単独	平成 19 年 2 月	中央研究院歐美研究所(台北、台湾)
講演“The East Writes Back –Afro-Asiatic Elements in Caribbean Literature”	単独	平成 19 年 2 月	国立高尾師範大学(高尾、台湾)
“Communicating with the Invisible /Inaudible—Edwidge Danticat and Fast Food Restaurants in Okinawa, Japan”	単独	平成 19 年 4 月	欧州黒人研究学会 (CAAR) 第 7 回国際学会 (Madrid, Spain)
特別講演 “Like It or Not” – English as a Tool for Contextualization and Subjectification –	単独	平成 19 年 6 月	育達商業学院 (苗栗、台湾)
特別 招 聘 講 演 “SWAYING IN TIME AND SPACE - Chinese Diaspora in the Caribbean and its Literary Perspectives - ”	単独	平成 19 年 6 月	ディアスポラ & 民族文化研究国際シンポジウム (国立中山大学、高尾、台湾)
講演「描かれつづける『見えないもの』とその意味—宮沢賢治から、トドロフ、ダンティカ、ダギュア、そして大城立裕まで」	単独	平成 19 年 12 月	多民族研究学会 (MESA) (立教女学院短大)

シンポジウム「黒人研究と平和ノボーダーを越境するダイアログ：Swaying in the Heat of the Islands—カリブ文学と『平和』」	単独	平成 20 年 6 月	黒人研究会全国大会(広島女学院大学)
「都市伝説と琉神マブヤー 時代を超えて人が求め続けるものとは？」	単独	平成 21 年 9 月	日本ポップカルチャー学会(昭和女子大学)
「琉神マブヤーを通してみる沖縄の文化と精神」2010年5月22日)	単独	平成 22 年 5 月	黒人研究会 5 月例会(神戸市外国語大学)
社会における主な活動			
平成 2 年 4 月～平成 21 年 5 月	外務省外郭団体「国際フレンドシップ協会」講師		
平成 7 年 4 月～平成 21 年 5 月	文部科学省認定 日本英語検定協会二次面接官(準 1 級担当)		
平成 10 年 4 月～平成 22 年 5 月(現在に至る)	多民族研究学会理事(MESA)		
平成 11 年 4 月～平成 22 年 5 月(現在に至る)	グローバルネットワーク 21 学会理事(GN21)		
平成 14 年 4 月～平成 22 年 5 月(現在に至る)	ポップカルチャー学会副代表(APOCS)		

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	准教授(学士)	氏名	加納 光
所属学会	日本中国語学会、日本中国学会、中国語教育学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	担当科目（語学の授業も含め）の少人数化が進み、授業を行い易い環境が整ってきた。これにより一人一人の受講生に十分な時間をとって解説し練習させる時間が増え、授業内容に対する受講生の理解度を向上させることができた。難解な内容を、平易な言葉と説明で十分な時間をかけて分かり易く解説をする。この点に特に力を入れている。			
2	作成した教科書、教材、参考書	講義用資料の作成は「中国語」「アジアコミュニケーション」「アジア文化論」において行っており、学生の要望を取り入れながら、分かり易い教材・資料を作成している。授業方法や教材・資料の改善により授業評価も年々上がってきている。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	数年来、留学生に対する日本語教育の講義を担当するようになり、多国籍の留学生に対する日本語教育のあり方を研究している。日本語教育を試行錯誤を重ねながら実践しており、その一環として、日本語弁論大会への参加を希望する留学生の指導を通し、全国大会への出場を果たした。			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	编者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「快～了」と「快要～了」の表す意味とその発話意図」	共著	平成 16 年 3 月	「中国語・日本語額論集」白帝社	杉村博文、方経民 他	66 頁～89 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
なし					
社会における主な活動					
なし					

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科		職名	准教授(学士)	氏名	木村 眞知子
所属学会						
教育活動						
教育実践上の主な業績			概 要			
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		自己表現から情報加工へ 私たちを取り巻くメディア環境は、構造そのものが大きく変化し、情報の送り手、受け手という図式も崩れてしまった。そんな時代だからこそ、全てのコミュニケーションの原点「身体メディアである自分自身」を見つめ、コミュニケーションとは何か、情報とは何かを問い直さなければならない。そのため、まず、声を発し、言葉を獲得し、詩作するなど、自分自身を表現することを学び、次に、個々の思いも含めて情報を伝えるための様々な加工方法による表現を実際に体験するものとする。			
2	作成した教科書、教材、参考書		映画・TV・ドキュメンタリー・芝居・各種パフォーマンス・CM等映像資料等			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項		「メディアと映像表現ゼミ」では、学生たちが自分たちの思いを表現する様々な映像作品を制作している。その一環として、四日市大学およびメディアコミュニケーション学科の各ゼミのCM制作を行っており、その作品は大学のホームページにアップする予定である。			
研究活動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
なし						
主な学会活動						
発表(報告)名等		単独・ 共同の別	発表の年月	学会名等		
なし						
社会における主な活動						
なし						

2 専任教員の教育・研究業績（芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員）

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	准教授(学士)	氏名	木村 真知子
展覧会・演奏・競技会等の名称		場 所	開催日時	発表・展示等の内容等	
広報ビデオ 「澁澤賞・電気保安の礎」		社団法人 日本電気協会	平成 17 年 10 月	昭和 31 年創設の澁澤賞は、民間で唯一の電気保安関係表彰であり 50 年の歴史をもつ権威ある賞である。日本の電気事業創成期の明治・大正・昭和にわたり電気工学研究開発の最先端で電気エネルギーの開発普及に生涯をかけ、澁澤賞の由来ともなった澁澤元治博士を紹介し、澁澤賞の現代的な意義を改めて認識してもらうことをねらいとする広報ビデオの企画制作。	
広報用冊子 澁澤賞 50 周年記念ブックレット「電気保安の礎 澁澤賞～創設 50 周年記念～」		社団法人 日本電気協会	平成 18 年 10 月	電気保安関係表彰として最も権威ある澁澤賞の創設 50 年を記念し、澁澤賞の歩みを顧みると共に、日本の電気保安の礎を築き澁澤賞の由来となった澁澤元治博士の功績と生涯を紹介し、澁澤賞の意義を広く知らしめるための冊子の企画制作。	
特別番組 「大江戸版 好色男のファルスタッフ」		東京 MX-TV	平成 19 年 10 月	IFAC (NPO 法人世界芸術文化振興協会)制作のオペラ「大江戸版好色男のファルスタッフ」は、ヴェルディがシェークスピア作品をもとに作った最後のオペラ「ファルスタッフ」を日本の江戸時代に移し換えたもの。その制作・上演を通して様々な国の音楽家やスタッフが共通の目的に向かって取り組む姿を追い、IFAC オペラが目指す音楽文化を伝える番組の企画制作。	
特別番組 『WALK WITH とともに歩む ゴルフの社会貢献』		東京 MX-TV	平成 20 年 1 月	2007 年 11 月、シドニーで開催された ISPS (国際スポーツ振興協会)主催の男女シニアゴルフ「オーストラリア・チャンピオンシップ」は、盲人ゴルフとのプロアマ戦が組まれるなど、スポーツを通じて社会貢献を目指す ISPS ならではの新しい大会となった。シニア選手と盲人ゴルファーが共にプレーする姿からゴルフの新たな可能性を見つめる番組。	
社内報 INAXメンテナンス 「IMT JUST NOW」		(株)INAX メンテナンス	年 6 回発行	(株)INAXのグループ企業、(株)INAXメンテナンスは、現在、従業員 600 名、専任サービスマン 750 名。社内報「IMT JUST NOW」は、その労使及び社員、サービスマンとのコミュニケーションを図ることを目的に、年 6 回発行の冊子の企画制作。	

社内報 I N A Xエンジニアリング「えんじ」	(株)I N A X エンジニアリング	年4回発行	(株)I N A Xのグループ企業、(株)I N A Xエンジニアリングは、従業員数760余名、I N A Xの施工付き商品の設計施工管理、建材・住宅設備機器などの商品の販売、さらに住宅リフォームなどを提供している。社内報「えんじ」は、従業員及び関係業者に向けてのコミュニケーションツールとして、年4回発行している冊子の企画制作。
社内報 I N A Xメンテナンス 「I M T J U S T N O W (社員版)」	(株)I N A X メンテナンス	平成21年5月号・7月号 9月号・11月号 平成22年1月号・3月号	(株)I N A Xのグループ企業、(株)I N A Xメンテナンスは、従業員550名の修理・メンテナンス会社。社内報「I M T J U S T N O W (社員版)」は、(株)I N A Xメンテナンスの労使及び社員のコミュニケーションを図るための冊子であり、年6回発行している。その社内報の企画制作を行っている。
社内報 I N A Xメンテナンス 「I M T J U S T N O W (協力業者版)」	(株)I N A X メンテナンス	平成21年5月号・7月号 9月号・11月号 平成22年1月号・3月号	(株)I N A Xメンテナンスの業務を請け負う協力業者は現在750名にのぼる。社内報「I M T J U S T N O W (協力業者版)」は、会社と協力業者とのコミュニケーションを図ることを目的に、年6回発行の冊子である。その社内報の企画制作を行っている。
I N A X顧客サービス情報誌 「i-mate club」	(株)I N A X メンテナンス	平成21年 夏号(7月)・秋号(10月)	(株)I N A Xの顧客サービスの一つ、会員制クラブ「i-mate」の会員向け生活情報誌「i-mate club」の企画制作にブレンとして参加。
社内報 I N A Xエンジニアリング「えんじ」	(株)I N A X エンジニアリング	平成21年夏号(7月)・ 秋号(10月) 平成22年冬号(1月)・ 春号(3月)	(株)I N A Xのグループ企業、(株)I N A Xエンジニアリングは、従業員数760余名、I N A Xの施工付き商品の設計施工管理、建材・住宅設備機器などの商品の販売、さらに住宅リフォームなどを提供している。社内報「えんじ」は、従業員及び関係業者に向けてのコミュニケーションツールとして、年4回発行している冊子。その社内報の企画制作を行っている。

1 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科	職名	准教授(学士)	氏名	関根 辰夫
所属学会	バーチャルリアリティ学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績			概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	実際に映像を見せたり音を聞かせたりすることにより、講義を担当する音楽史、音楽環境論において、歴史や理論をただ単に伝えるのではなく、学生が関心を持ちやすいプレゼンテーション方法を工夫した。			
2	作成した教科書、教材、参考書	音楽環境論、音楽史の各教材作成。セミナーの学生が音の性質を理解するために、数々のエフェクターなどを使った ProTools のセッションファイル。			
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし			
4	その他教育活動上特記すべき事項	本学のスタジオで、学生達自身による演奏を、プロが実際に使っている機材を用い、自分達で録音・編集し、CD 制作の実際を学ぶ。また、最新の録音環境である ProTools を使うことにより、次世代音響技術の習得も目指す。			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
日韓のレコーディングについて	単著	平成 20 年 9 月	Full Digital Innovation Vol.108		18 頁～21 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独・共同の別	発表の年月	学会名等		
なし					
社会における主な活動					
なし					

2 専任教員の教育・研究業績

所属	環境情報学部メディアコミュニケーション学科		職名	准教授(学士)	氏名	関根 辰夫
展覧会・演奏・競技会等の名称		場 所	開催日時	発表・展示等の内容等		
韓国アーティスト「Four Men」		一口坂スタジオ	平成 17 年 6 月	韓国アーティスト「Four Men」の日本におけるストリングスおよび、ピアノの録音制作		
韓国アーティスト「MRJ」		ワーナーマスタリングスタジオ	平成 17 年 9 月	韓国アーティスト「MRJ」のアルバムのマスタリングにおける制作協力		
TBS ドラマ「ひまわりさん」		サムライミュージックスタジオ	平成 17 年 9 月	TBS ドラマ「ひまわりさん」劇中使用曲のベーストラック・ダビングの録音、およびミックスダウン		
松竹映画「出口のない海」		松竹音楽出版	平成 17 年 11 月	韓国作曲家チョ・ソンウによる、松竹映画「出口のない海」劇中使用曲の音楽制作協力		
韓国「エバーランド」パレード音楽		ウエストサイドスタジオ	平成 18 年 1 月	韓国のテーマパーク「エバーランド」30 周年記念パレードのギター・パーカッションなどのダビングおよび制作協力		

韓国アーティスト「ユンゴン」	ウエストサイドスタジオ	平成 18 年 5 月	韓国アーティスト「ユンゴン」のユナイテッドアジアによるミックスダウン
ストリングス・ユニット「シーズン」	Take One スタジオ	平成 18 年 6 月	ストリングス・ユニット「シーズン」のヴァイオリン等弦楽器の録音およびミックスダウン
韓国アーティスト「ホン・ギョンミン」	一口坂スタジオ	平成 18 年 7 月	韓国アーティスト「ホン・ギョンミン」ボーカル録音および制作協力
Asian Relax	横浜みなとみらいホール	平成 18 年 10 月	日本 / 韓国 / 中国アーティストによる琴の競演コンサート「Asian Relax」制作協力
韓国アーティスト「Won EunHo」	一口坂スタジオ	平成 18 年 12 月	韓国アーティスト「Won EunHo」アルバムの録音およびミックスダウン
今日は一日 ”桜・さくら・SAKURA ”	サムライミュージックスタジオ	平成 19 年 4 月	NHK テレビ番組「今日は一日 “桜・さくら・SAKURA ”」の劇中使用曲のベーシックトラック・ダビングの録音、およびミックスダウン

ソニン	ワーナーミュージックスタジオ	平成 19 年 6 月	「ソニン」のボーカルの韓国語バージョンの録音
神部冬馬	ウエストサイドスタジオ	平成 19 年 10 月	イルカオフィス所属「神部冬馬」アルバムの音楽録音制作
「PeggySue」アルバム録音制作	北島音楽出版	平成 21 年 9 月	新人アーティスト「PeggySue」アルバムの録音およびミックスダウン
キーボーディスト「喜多郎」	DOMO Music Group	平成 22 年 4 月	キーボーディスト「喜多郎」の韓国内コンサート制作協力